

色麻町教育委員会の事務の管理及び執行状況  
についての点検及び評価の結果報告書  
(令和6年度実績)

令和8年4月

色 麻 町 教 育 委 員 会

## Ⅰ はじめに

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会においては、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、色麻町教育委員会の教育基本方針に基づく具体的施策や重点事業等の実施状況について点検及び評価を行うものです。さらに、学識経験者の意見を聴取したうえで、課題や今後の改善方策を明らかにするとともに効率的かつ効果的な教育行政の推進を図ることとし、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、町民に対する説明責任を果たし町民に信頼される教育行政を推進するものです。

令和8年4月

色麻町教育委員会

## 関係法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## II 実施概要

### (1) 評価の対象

教育基本方針に基づく教育重点施策や具体的事業実践プラン等の実施状況について点検及び評価を行いました。

### (2) 対象期間

令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

### (3) 評価の観点

教育基本方針に示す具体的施策等について、成果と課題を明らかにした上で、次に示す5区分により達成度を評価しました。

⑤	大変満足
④	概ね満足
③	普通
②	やや不十分
①	不十分で改善必要

## III 結果

### (1) 具体的取組計画等の評価

評価	⑤ 大変満足	④ 概ね満足	③ 普通	② やや不十分	① 不十分で改善必要
項目数	0 (0.00%)	101 (81.45%)	23 (18.55%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)

### (2) 総合評価

評価	⑤ 大変満足	④ 概ね満足	③ 普通	② やや不十分	① 不十分で改善必要
項目数	0 (0.00%)	39 (79.59%)	10 (20.41%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

### (3) 公表の方法

町ホームページに掲載します。

## 色麻町の教育基本方針

色麻町の恵まれた自然の中で、未来に向けて志を高くし、心身ともに健やかな人間の育成と、潤いと活力に満ちたふるさとづくりを目指して、次のことを重点に、本町の未来を展望しながら、町民の生涯にわたる学習の充実に努めます。

- **確かな学びの力と  
やさしさやたくましさを培う学校**
- **学びと潤いを大切に  
人と人との絆をつなぐ家庭と地域社会**
- **芸術文化の創造と  
活力ある生涯スポーツの振興**

### IV 目次

#### 教育の重点

##### 教育委員会

1	教育委員会運営事業	6
2	事務局運営事業	6
3	奨学事業運営事業	9
4	児童生徒の通学確保に関する事業	9
5	学校給食に関する事業	10
6	不登校児童生徒等への支援に関する事業	10

##### 学校教育

1	創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進	12
2	確かな学力を培う学校づくりの推進	14
3	豊かな心をはぐくむ学校づくりの推進	20

4	健康でたくましい児童・生徒をはぐくむ教育環境づくり	24
5	教職員と家庭・地域が誇れる学校づくりの推進	26

## 社会教育

1	生涯学習社会の推進	32
2	ライフステージに応じた社会教育「学び」の充実	35
3	図書事業の推進	38
4	情報技術・視聴覚教育の充実と振興	40
5	芸術文化活動の振興	40
6	文化財保護体制の整備充実と活用の推進	41
7	生涯スポーツの推進	43

## 学識経験者による意見書

	意見書	47
--	-----	----

# 教 育 委 員 会

# 教育委員会 事務事業点検評価

## 1 教育委員会運営事業

### (1) 教育委員会委員活動の事務執行

主 要 事 業	① 教育委員会の開催	
具体的取組計画等 毎月1回定例会を開催し、教育長から提案された議案を審議した。また、必要に応じ臨時会を開催し、教育行政の円滑な運営に努めた。		4
主 要 事 業	② 学園訪問	
具体的取組計画等 色麻学園を訪問し、教育委員会で定めた教育方針に沿った学校経営や指導計画が実践されているか校長から説明を受けるとともに、学習指導の状況、教育活動について意見交換を行った。		4

### 成果と課題

総合評価

4

・会議資料の事前配布は議事進行、審議の深まりに効果的であった。また、提案された議案について慎重に審議を重ね、教育行政の円滑な運営に寄与できた。 ※委員会開催 15回（定例会 12回 臨時会 3回） 議案 41件 協議 4件 報告 5件。 11月28日学校訪問を実施し、現状を把握することができた。
--

## 2 事務局運営事業

### (1) 教育全般にわたる事務の適正な処理

主 要 事 業	① 就学に関係すること	
具体的取組計画等 入学通知、転校、区域外就学の手続き。		4

## 教育委員会 事務事業点検評価

主 要 事 業	② 教科書、教材の取扱いに関係すること
具体的取組計画等	教科書の無償給付に関する事務。 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">4</span>
主 要 事 業	③ 教育関係職員の研修に関係すること
具体的取組計画等	研修の案内及び希望者の取りまとめと申請。 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">4</span>
主 要 事 業	④ 学級編制に関係すること
具体的取組計画等	職員の定数及び学級数に関する事務。 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">4</span>
主 要 事 業	⑤ 教育に関する調査、統計に関係すること
具体的取組計画等	学校基本調査及び地方教育調査の実施 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">4</span>
主 要 事 業	⑥ 学校施設整備に関係すること
具体的取組計画等	校庭芝生維持管理業務 校庭の砂飛散対策、学園の緑化推進を目的としている。 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">4</span>
主 要 事 業	⑦ 外国青年英語指導助手招致に関係すること
具体的取組計画等	・児童・生徒への英語の指導。今年度より外国語指導助手派遣委託業務として(株)インタラック北日本と契約し、外国青年英語指導助手の招致を行った。 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">4</span>
主 要 事 業	⑧ 国際交流に関係すること
具体的取組計画等	・町内中学生を対象とした国際交流事業について審議するため、推進審議会を設置し、年1回実施。多くの生徒が参加できる交流内容について協議した。 ・国際交流海外派遣事業を実施してきたが、今後は多くの生徒が語学力向上や海外の文化に触れる事を目的とし、次年度からの事業実施に向け検討していく。 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">3</span>
主 要 事 業	⑨ スクールソーシャルワーカーに関係すること
具体的取組計画等	児童生徒が抱える問題等の解決または好転を図るため、児童・生徒、保護者及び教職員を対象に教育支援を行うため、スクールソーシャルワーカーを配置し、対応している。 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">4</span>

## 教育委員会 事務事業点検評価

主 要 事 業	⑩ 小学校入学祝金に関係すること
具体的取組計画等 子育て支援を目的とした小学校入学祝金支給の実施 支給対象児童: 第3子以降 祝金の額: 一人 30,000円	
4	

### 成果と課題

総合評価

4

・各事務処理については適正かつ遺漏無く執行された。また、区域外就学については、保護者の希望を最大限尊重し、承諾している。

・教育関係職員の研修については、宮城県教育研修センター等からによる研修案内を色麻学園に送付し、教職員の資質の向上並び指導力向上に努めた。今後も教育活動充実のため、様々な研修に参加できるよう支援していく。

・今年度より民間企業と外国語指導助手派遣委託業務を締結し、児童生徒への英語指導、外国語活動や交流をとおして、言語のみならず異国文化に触れることで、広い視野を持つ人間形成の一助となるようALTを配置した。

・これまでは町内中学生の語学力向上を図り、国際的コミュニケーション能力や海外の文化・生活様式、価値観などについて学び、国際社会に対応できる人材育成の一環として中学生の国際交流海外派遣研修事業を実施してきた。今後は希望する生徒のみならず、在籍している生徒全員を対象に事業を展開し、多くの生徒が異文化に触れ、実践的なコミュニケーション能力の向上を図るとともに、多様な考え方や異文化に対する理解を深めていくよう国際交流推進審議会で事業内容を検討した。

・色麻学園の校庭芝生化は、かねてから課題となっていた砂塵対策の一助になった。芝生化は、緑化推進にも繋がり、児童生徒の癒やしの空間となり得ることから、情操教育にもよい影響を与えてくれる。校庭で思いきり身体を動かすことにより、児童生徒の健康増進を図ることができるようになる。今後も適正に芝生が生育するよう管理の一部を業者へ委託し、適正に管理していく。

### 3 奨学事業運営事業

#### (1) 奨学資金貸付金貸与者選考、貸付け、返還及び基金造成

主 要 事 業	① 奨学資金の貸付, 返還に関すること	
具体的取組計画等 経済的な理由で就学困難な人に対して無利子で奨学資金を貸与する。 貸与額 高校生等 3万円 短大生等 4万円 大学生等 5万円  ①貸付者 21人(高校生等 2人 短大生等 3人 大学生等 16人) ②返還対象者 40人		<b>4</b>

#### 成果と課題

総合評価

**4**

- ・貸付申込者については、奨学事業運営委員会での選考を経て決定した。
- ・5月、7月、10月、1月の年4回貸付している。
- ・令和6年度においては、計画的な返還ができるよう定期的に納入状況を確認し、期限内に納入してもらった結果、返還者全員に完納してもらうことができた。今後も各月の返納状況を確認しながら、年度内に完納してもらえるよう努めていく。また、過年度分の滞納者については、現在も継続して対応中である。

### 4 児童生徒の通学確保に関する事業

#### (1) 児童生徒送迎事業

主 要 事 業	① 児童送迎事業	
具体的取組計画等 ・児童生徒の通学手段として、スクールバスを運行し、安全かつ確実に送迎を行う。 ・スクールバス利用の第3子以降の軽減事業を実施 ※利用者 色麻学園(前期課程) 111人 43.5% 色麻学園(後期課程) 76人 48.1% ※停留所 72カ所		<b>4</b>

#### 成果と課題

総合評価

**4**

- ・同一世帯において、色麻学園に同時に就学している児童生徒において、第3子以降が利用する場合の利用料を無料とし、利用料の軽減に努めた。
- ・児童生徒の安全確保を第一に考え、各停留所を設定し運行を行った。今後も事故防止に努めるとともに、安全管理について徹底していく。

## 5 学校給食に関する事業

### (1) 学校給食費軽減事業

主 要 事 業	① 学校給食費軽減事業	
具体的取組計画等 子育て支援の一環として、前期課程、後期課程の給食費の軽減事業を実施。一食単価15%を軽減。 前期課程:310円 → 263円 後期課程:372円 → 316円		4

### 成果と課題

総合評価

4

・保護者の経済的負担を軽減し、安心して子育てができる環境を整えるため、給食費の15%軽減を実施した。

## 6 不登校児童生徒等への支援に関する事業

### (1) 子どもの心のケアハウス事業

主 要 事 業	① 子どもの心のケアハウス事業	
具体的取組計画等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援対象児童生徒数 4名(前期課程1名・後期課程3名)</li> <li>・心のサポート活動 (教育相談窓口)</li> <li>・自立サポート活動 (社会的自立や進路支援)</li> <li>・学びサポート活動 (学習支援や体験活動)</li> </ul>		4

### 成果と課題

総合評価

4

・学校復帰児童1名(前期課程1名)の保護者と定期的な電話相談を行い、学校登校の見守りを行った。  
 ・学校とPCの連絡表を活用して毎日情報交換を図った。また、学校の担任、心の支援員と情報を共有し、進路指導等を行い、2名の生徒の公立高校進学、通信制高校の進学に繋げることができた。  
 ・家庭の事情により送迎ができない生徒については、公用車での送迎を行い、通所回数を増やした。  
 ・社会的な自立に向けて、不登校児童生徒に心のケアハウス通所ができるように働きかけをしていきたい。

# 学 校 教 育

# 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

## 1 創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進

### (1) 義務教育学校としての着実な学校経営

主 要 事 業	① 教育目標の具現化	
具体的取組計画等 魅力ある小中一貫教育の創造に向けて、学校経営方針に定める「目指す学校像、教師像、児童生徒像の具現化に努め、全教職員の共通理解を図る。具体的な重点目標である「聡明」「強健」「誠実」「夢」「挑戦」の達成に向けて、「児童生徒最優先」「児童生徒ために学校があり、授業があり、教職員がいる」を念頭に、教職員が一丸となって教育活動を展開する。		4
主 要 事 業	② 学校評価の実践・活用・改善	
具体的取組計画等 教職員による年間2回の学校評価、児童生徒、保護者による学校生活等に関するアンケート、学校評価委員会による学校評価を実施し、教育活動の成果と課題を把握する。その結果を公表するとともに、課題について可能な部分から改善を図り、次の教育活動や次年度の教育課程編成に生かす。		4
主 要 事 業	③ 学校評議員制※R5年度より学校運営協議会へ移行	
具体的取組計画等 年間3回の学校評議員(※R5年度より学校運営協議会へ移行)との会議を実施し、学校経営の方針と課題、教育活動を共有するとともに、多様な視点から出された意見を課題改善に生かす。また、学校と地域の連携が深まるよう、更に学校評議員との信頼関係の構築に努める。		4

### 成果と課題

総合評価

4

・目指す学校像、教師像、児童生徒像について全教職員で共通理解を図り、共通行動につなげることができた。さらに、4月の懇談会資料にはグランドデザインと共に、学年学級にあわせてグランドデザインをもとに、具体化した目標を掲載し、家庭と学校が同じ目標に向かって指導できるように保護者に呼び掛けた。

・地域に開かれた学校を目指し、学校教育の様子を各種便りやHP等を活用し、保護者や地域に積極的に発信した。地域にも学校だけでなく、教育活動の様子を周知するなど保護者だけでなく、地域の方々の教育活動への理解を深めることができた。

・学校評価を実施し、その結果について、改善を図った。長期的な見通しも必要なものもあったため、次年度に向けての計画を立て、改善に努めていく。

・保護者アンケートは今年度も、多くの項目において肯定的な回答が8割程度をしめた。学校評価の結果については、全校の保護者に周知し、さらにHPにも掲載し、評価の公開も行った。

・今年度の学校運営協議会は、4回の実施となった。その中で、学校経営方針の下、児童生徒の授業の様子や教職員の指導の様子を見ていただき、各教育活動の取組や学校評価の結果について協議した。学校運営委員として地域の学校作りの具体策を協議できた。

・今後、義務教育学校としての特色を生かして、前期部・中期部・後期部の3つの期部を生かした教育活動を運営していく。

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### (2) 創意と工夫に満ちた教育課程の実施と評価

主 要 事 業	① 学習指導要領に基づいた教育課程の実施と評価	
具体的取組計画等 学習指導要領の全面改訂に向けて、9年間の一貫教育の系統性と連続性を意識した特色のある教育課程を編成する。また、教育課程の評価については、PDCAのマネジメントサイクルを生かし、年間を通して教育活動の改善につながるよう努める。		4
主 要 事 業	② 9年間の一貫教育による潤いのある教育課程の実施と評価	
具体的取組計画等 前期課程高学年に一部教科担任制の授業を取り入れたり、後期課程教員による一部乗り入れの授業を取り入れたりするなど、各教科部の連携と義務教育学校の特色を生かした教育課程を展開する。また、色麻学園一丸となつての行事や教育活動を教育計画に位置付け、事後の評価を行い、改善に努める。		4
主 要 事 業	③ 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図った指導計画の作成	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「色麻を知り・学び・創る」郷土学習の推進(志教育・総合的な学習の時間「色麻学」)</li> <li>・ 「世界の中の日本」の認識を高める国際理解教育の推進(国際理解教育)</li> <li>・ 情報活用能力・情報モラルを高める情報教育の推進(情報教育)</li> <li>・ 環境への理解を深め、よりよい環境づくりにつながる環境教育の推進(環境教育)</li> <li>・ 人間尊重・福祉の心を大切にした人権・福祉教育の推進(福祉教育)</li> <li>・ 図書の整備・活用と地域に開かれた図書館づくりの推進(図書館教育)</li> </ul>		
具体的取組計画等 各教科・領域等との関連を図った年間指導計画を作成し、教職員が共通理解を図った上で指導に当たる。また、それぞれの教科・領域ごとに年間指導計画を基にした教育活動を展開し、PDCAのマネジメントサイクルを意識して改善を図る。		4
主 要 事 業	④ 個に応じた指導計画の作成と改善	
具体的取組計画等 特別に配慮が必要な児童生徒については、諸会議や打合せ、担当の教職員間で共通理解を図る。また、当該児童生徒の実態を把握し、個別の支援計画や指導計画を作成し、きめ細やかな指導に当たる。		4
主 要 事 業	⑤ 地域の教育力を生かした教育課程の実施と評価	
具体的取組計画等 学習支援ボランティアや外部講師として協力が得られる地域の人材などを積極的に活用したり、関係機関や地域の施設設備を生かした学習活動を展開したりする。		4

# 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

## 成果と課題

総合評価

4

・教育課程の実施については、指導案作成や互いの授業の参観、研究授業の検討会などで、前期課程と後期課程それぞれの目標や内容の違いを確認しながら検討会を進めることができた。9年間の系統性や前期と後期のつながりについて確認しながら、児童生徒がよりスムーズに学習を進めることができるよう、計画して授業実践につなげることができた。

・高学年に一部教科担任制の授業を取り入れたり、後期課程教員による一部乗り入れの授業を取り入れた授業を行った。各教科ごとに前期課程、後期課程で互いに交流し合いながら、9年間の系統性を意識した授業作りを日常的に行うことができた。

## 2 確かな学力を培う学校づくりの推進

### (1) 教科等の指導力を高める教職員研修の充実

主 要 事 業	① 今日の教育課題の共通理解と解決に向けた校内研究の推進	
具体的取組計画等	個人研究に取り組む中で、教職員が合同で校内研究を推進し、課題を共有化したり、課題解決、課題改善に協同で取り組んだりすることで教科の枠を超えた授業力を高めていく。	4
主 要 事 業	② 専門職としての資質と指導力の向上を目指した校内研修体制の充実	
具体的取組計画等	日常的な教職員同士の学び合いを基盤として、定期的に全職員での研修会を開催したり、外部から講師を招聘したりしながら学び続けることで、専門性を高め合う教員集団をつくるとともに、みやぎの教員に求められる7つの資質能力(授業力、生徒指導力、子ども理解、学校を支える力、教育への情熱、たくましく豊かな人間性、自己研鑽力)を向上させていく。	4

## 成果と課題

総合評価

4

・授業でのICT教材の活用について、情報教育担当者による、研修会を行った。

・デジタル教科書を効果的に生かしながらの授業実践を教員同士で参観したり、検討会をしたりしながら、授業スキルの向上に努めることができた。

・講師を招いて教員向けの研修をおこなった。児童生徒が、iPadを学習ツールとして使い、自分の意見を表現する授業作りについて研修し、さらに授業実践を参観し合うことができた。

・GIGAスクール構想の下、一人一台のタブレットの使用に伴い、情報モラル教育が、重要となってきた。各教科を通して、ことばの大切さに焦点をあてながら、SNSの情報との付き合い方を発達段階に応じて指導している。

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### (2) 発達段階に応じた指導と評価の工夫

主 要 事 業	① 発達段階に応じた学習活動の充実(課題の明確化と学習評価)	
具体的取組計画等 児童生徒の実態から課題を把握し、課題の改善に向けて発達段階に応じた効果的な指導方法を探究し、共通理解の下、指導に当たる。9年間を一貫教育の中で系統性と継続性を意識した教材研究と学習指導、評価を行うことにより、児童生徒の学習活動の充実を図る。		4
主 要 事 業	② 自ら学ぶ意欲を高める体験的・課題解決的な学習の充実(分かる授業づくり)	
具体的取組計画等 学力向上に向けた5つの提言を着実に実践するために、学習課題を明確に示したり、振り返りの時間を授業の中に位置付ける。また、児童生徒の思考・表現・判断を促す明快で分かりやすい発問や指示を行い、児童生徒の考えや努力を認め、賞賛することで学ぶ意欲を高めさせる授業づくりに努める。		4
主 要 事 業	③ 少人数・習熟度別指導等効果的な指導形態の充実(個を生かす指導)	
具体的取組計画等 算数科等で少人数指導やTT指導を行い、児童の実態を把握し、きめ細やかで個に応じた指導に努める。(前期課程) 数学科で少人数指導やTT指導、個別指導を行い、きめ細やかな個に応じた指導に努める。(後期課程)		4
主 要 事 業	④ 各教科等の関連を図った学習計画と学習活動の充実(横断的・総合的な学習)	
具体的取組計画等 総合的な学習の時間の趣旨を踏まえ、育てようとする資質や能力及び態度を明確にし、各教科の指導と関連を図り、義務教育学校9年間の見通しをもった系統的な学習が充実するように指導計画を作成し、地域の教育力を取り入れながら実践する。		4
主 要 事 業	⑤ 前期課程高学年と後期課程との連続性を大切にした英語科指導の工夫・改善	
具体的取組計画等 英語部会を中心に、4技能のバランスを考慮して、系統性や連続性の共通理解を基に教材研究を行ったり、教職員によるTT指導や、より専門的な指導を取り入れたことにより、児童生徒の学習意欲の向上と指導方法の工夫・改善を図る。		4
主 要 事 業	⑥ 9年間の連続性を大切にした補充・発展的な学習の充実(指導体制)	
具体的取組計画等 前期課程・後期課程の系統性と連続性を踏まえ、各教科の基礎的・基本的な力の定着を図る。また、活用する力を継続して伸ばしていくために、補充・発展的な学習を計画的に取り入れていく。		4

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

主 要 事 業	⑦ 前期課程高学年における一部教科担任制の実施と改善(指導体制)	
具体的取組計画等		4
5・6年生の体育科や音楽科を始めとした一部教科担任制による指導を実施し、より専門的な授業を展開するとともに、義務教育学校としての連続性を考慮して、指導体制の改善を図る。		
主 要 事 業	⑧ 評価の観点及び評価規準の設定と活用(指導と評価の一体化)	
具体的取組計画等		4
年間指導計画の中に、学習指導要領の目標と内容及び児童生徒の実態等を踏まえ、より具体的に評価規準を設定し、指導及び評価を行う。観点別学習状況の評価における最適の時期や方法を観点ごとに整理を行うとともに、指導方法の改善に努める。		
主 要 事 業	⑨ 標準的学力検査等の実施と結果の分析・活用(指導と評価の一体化)	
具体的取組計画等		4
標準的な学力検査及びi-checkを年間2回実施し、児童生徒の当該学年での学習達成度・到達度を把握するとともに、結果を分析・考察することにより、各学年ごとの課題を捉え、授業改善に生かす。		

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>	<b>4</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、前期課程5・6年の図工科及び英語科、6年の理科、5年の体育科において後期課程教員が、より専門性の高い指導を行った。また、前期・後期課程の教員が互いに授業を参観し合うことで、各教科の系統性を確認することができた。義務教育学校の特色を生かした指導方法や指導計画の工夫を図ることができた。今後は、系統性を見据えたより具体的な指導法を探るため、校内研究や総合的な学習において、見直しや改善を行っていききたい。</li> <li>・前期課程3、4年生の外国語活動と高学年の外国語指導は、後期課程からの乗り入れALT、町教諭で授業を行い、専門性を生かした授業を行うことができた。そのため、児童は英語で楽しくコミュニケーションをとることができていた。児童の実態に応じた手立てを工夫したり、ICTを効果的に活用したりしながら、コミュニケーションの基礎を身に付けさせることができた。今後も後期課程への円滑な移行にするために、9年間の連携を図っていくことが必要である。</li> <li>・数学科において、少人数での指導を実施した。学習内容の確かな定着をねらいとして取り組むことができた。</li> <li>・学力調査や実力テストなどの調査結果を分析し、課題克服に向けた指導方法の方向性について、教育相談及び懇談資料で保護者に伝えた。また、AIによる個人分析から、個に応じた補充学習ドリルに取り組みせたことで、個に応じた学習を進めることができた。</li> </ul>		

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### (3) 一人一人の発達段階や特性を考慮した特別支援教育の推進

主 要 事 業	① 特別支援コーディネーターを中心とした校内研修と支援体制の充実	
具体的取組計画等 特別支援コーディネーターを中心に、全職員での研修会を開催し、特別支援教育の在り方、ユニバーサルデザインを取り入れた指導法などについて、学園全体で共通理解を図る。また、通常学級において、特別に配慮を要する児童生徒の情報を共有し、必要に応じて外部機関と連携を図りながら校内での支援体制の整備と教職員の指導力向上に努める。		4
主 要 事 業	② 特別支援計画及び個別の支援計画の作成と積極的な活用	
具体的取組計画等 特別支援計画については教職員全体で共通理解を図り、児童生徒の指導に生かす。また、特別な配慮を必要とする児童生徒については、それぞれ個別の支援計画を作成し、個に応じた指導に当たる。		4
主 要 事 業	③ 交流学习推進のための協力体制の確立と適切な進路指導	
具体的取組計画等 特別支援教育担当と通常学級担当が連携し、教科・領域等の学習の一部や学校行事等において、見通しをもって通常学級で交流学习を行う。また、個別の支援計画に基づき、児童生徒一人一人の適切な進路指導の充実を図る。		4
主 要 事 業	④ 校内特別支援教育委員会及び就学指導委員会の推進・充実	
具体的取組計画等 校内就学指導委員会において、将来の自立や社会参加のために必要な力を培うという視点に立って、適切な就学指導を推進するとともに、前期課程と後期課程が連携しての効果的な特別支援教育の在り方についても探っていく。		4

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>	<b>4</b>
・特別な配慮を必要とする児童生徒については個別の支援計画及び指導計画を作成し、計画的に指導することができた。また、保護者との面談を継続的に行うことができた。外部の教育相談機関等も保護者に紹介したことで、発達についての課題が見付かることもあり、その都度、担任と特別支援コーディネーター、10年部が協力して対応した。児童生徒や保護者の不安が安心に変わるように丁寧な対応ができた。		

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### (4) 家庭における学習を支える指導の工夫

主 要 事 業	① 生活リズムの改善と定着(家庭との連携)	
具体的取組計画等 学校改善アンケート(保護者アンケート)等から家庭での実態を把握し、基本的な生活習慣の確実な定着を図るために、各種便りや学年・学級懇談会、家庭訪問等の機会をとおして、継続して家庭への啓発に努める。		4
主 要 事 業	② 児童生徒の発達段階に応じた課題提示の工夫(家庭学習と授業づくり)	
具体的取組計画等 「生活のしおり」の作成・改善を図り、教職員が共通理解の上、家庭学習への継続的な取組を促す。9年間の発達段階を考慮して課題(宿題)や自主学習の内容等を吟味し、家庭学習の手引き等を提示する。また、9年間の系統性と連続性を踏まえ、家庭学習が授業に結び付くよう、課題や自主学習の在り方についても引き続き検討する。		4
主 要 事 業	③ 学ぶ意欲を高める指導・手立ての工夫(家庭学習と授業づくり)	
具体的取組計画等 家庭学習の習慣を定着させるために、教員がノートに朱書きのコメント等を書いて励ましや称賛の声掛けをしたり、ノートコンクールを実施したりすることで、児童生徒の意欲付けを図る。また、分かる授業、学びを実感できる授業づくりに努め、児童生徒の探究心と学習意欲を喚起する。		4

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
・年2回の学校評価アンケートや長期休業時の健康調査などから、全国と比較して、主にSNSの利用時間が多いことが課題として見えてきた。学校だよりや保健だより、懇談会、教育面談等で基本的な生活習慣の大切さを改めて見直すように、発信した。 ・タブレットを活用し、毎日家庭学習の課題に取り組ませたり、個別に対応した課題も随時提示することができた。タブレットが文房具として日常的に活用できるような位置付けになってきている。さらに、授業ではロイロノートを活用して、児童生徒への評価のフィードバックも速やかに行うことができ、学習意欲が向上している。	
<b>4</b>	

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### (5) ICTを活用した教育環境の充実と活用

主 要 事 業	① 教材・教具・備品の点検・整備・活用	
具体的取組計画等 年間を通して、定期的に教材・教具・備品の点検整備に努め、授業の中で有効に活用する。		4
主 要 事 業	② 情報機器等の整備・活用と校内体制の充実	
具体的取組計画等 情報機器の整備と管理を行うとともに、各教科・領域で情報機器を活用した効果的な学習指導の事例を共有するなど校内研修の充実を図る。		4
主 要 事 業	③ 学校支援ボランティア等地域人材の活用	
具体的取組計画等 各教科の学習や総合的な学習の時間など教育活動全般で、学習支援ボランティアを含む地域の人材の活用や部活動の外部指導者の活用等を積極的に図ることにより、教育活動の充実を図る。		4

### 成果と課題

総合評価

4

・年間を通して、各学年または、各教科、分掌ごとに年に1回以上は必ず教材点検を実施している。その中でも、古くなって使えないものや、新しく必要になったICT教材等を新たに購入するなど、効果的な学習指導ができるよう、毎年見直しを行ってきた。実物の教材道具と合わせて、アプリ等の教材についても見直しをしながら授業に取り入れたことで、より分かりやすい授業づくりに役立っている。

・地域学校協働本部の方々をはじめ地域の方々の協力を得ながら、学習活動を行うことができた。前期課程においては、低学年の花植え、サツマイモ栽培、3年生の野菜の栽培、4年生のエゴマ植栽、5年生の稲作体験、6年生の歴史学習を実施した。児童は地域のよさを実感するとともに、生活科・総合的な学習の時間のねらいを達成できるものとなった。また、5年生では、家庭科のミシンの学習で、学校支援ボランティアの協力を得ることができた。

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### 3 豊かな心をはぐくむ学校づくりの推進

#### (1) 各発達段階に応じた「志教育」の推進

主 要 事 業	① 自他のよさに気づき、個性を伸ばそうとする態度の育成	
具体的取組計画等 各教科・領域等の様々な教育活動において、多くの人々や社会と関わる学習や体験活動を通して、主体的な学び方を身に付け、自分の役割を積極的に果たそうとする態度や自己有用感を育てる。		4
主 要 事 業	② 将来への夢や希望を持ち、実現を目指す態度の育成	
具体的取組計画等 各教科・領域等において、将来の夢や希望、生き方について学習する時間を系統的に踏まえ、計画的に設定する。前期課程4学年での「十歳の誓い」の内容を充実させる。(前期課程) 各教科・領域の学習や職業体験活動、後期課程8学年の立志式等教育活動全体を通して、自分の生き方や将来に対する夢を育み、卒業後の適切な進路選択を考える機会を意図的・計画的に設定する。(後期課程)		4
主 要 事 業	③ 働く喜びや勤労の尊さを経験させる啓発的体験活動の充実(進路指導)	
具体的取組計画等 学級での係活動や清掃活動、委員会活動、家庭での手伝い、地域での諸活動等を通じ、自分の役割や責任を果たす喜びを体験させる。 日常的な清掃活動、9学年合同運動会での後片付け作業、学期末の愛校清掃等を通じ、働く喜びや勤労の尊さを実感させる。		4
主 要 事 業	④ 小・中・高等学校や家庭・地域との連携(進路指導)	
具体的取組計画等 保護者や地域の方々、関係機関との連携を図りながら、地域の公的機関の見学や学習支援ボランティアの方々と一緒に活動する機会を充実させる。 地域の公所、事業所等での職場体験活動を充実させたり、卒業生から講話を聞く機会や高校体験入学等の機会を設定したりするなど、主体的に進路を考える機会を充実させる。		4

#### 成果と課題

総合評価

4

・前期課程4年生では「十歳の誓い」後期課程8年生では「立志式」を実施することができた。児童生徒が自らの成長を自覚するとともに、将来の夢や希望について、保護者に発表する機会を持つことができた。

・委員会活動、係活動、清掃活動等を通して、学級、学年、学校のために活動する場を設定し、自分以外の人達のために働くことの喜びを味わわせるようにしている。また、「6年生に感謝する会」や「9年生を送る会」など互いに感謝の気持ちを伝え合う場面の設定や社会見学や学習ボランティアでお世話になった地域の方々への感謝の手紙を書く活動にも取り組んでいる。

・5年生の総合的な学習において、色麻町の商店や工場などを見学させていただいたり、8年生では職場体験学習を実施し、自分の進路について考え、体験することができた。今後も、児童生徒が自分の将来の生き方や地域のよさ等について考えることができるよう、学校教育活動に取り組みせていきたい。

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### (2) 心をはぐくむ道德教育の推進

<b>主 要 事 業</b>	① 道德の時間を要とした全体計画と年間指導計画の整備と実施(計画の整備)	
具体的取組計画等 「特別の教科 道德」として新たに位置付けられたことを踏まえ、各教科等との関連を図りながら、全体計画と学年・学級ごとの年間指導計画を見直し、改正学習指導要領の趣旨を踏まえて整備・改善するように努める。		4
<b>主 要 事 業</b>	② 道德的価値観の内面化を図る指導の工夫と改善(道德の時間の充実)	
具体的取組計画等 「私たちの道德」やみやぎの先人集「未来への架け橋」などの道德的資料を積極的に活用して、児童生徒の道德性を育む。また、道德資料の価値分析と指導方法の工夫改善に努めることにより、生き方についての考えや自覚を深められるように響く指導の充実を図る。		4
<b>主 要 事 業</b>	③ 道德的実践力を養う体験的な活動の充実(全教育活動と連携)	
具体的取組計画等 道德的価値及び人間の生き方についての自覚を深めさせ、道德的実践力を育むために、全教育活動との関連を踏まえ、豊かな体験活動の充実と他者との関わりの中で自らを振り返る指導の充実を図る。		4
<b>主 要 事 業</b>	④ 個々の成長を認め・励ます評価方法の工夫(変容・成長を見守る評価)	
具体的取組計画等 数値による評価ではなく、児童生徒の道德性に係る変容や成長を把握して、よりよく生きようとする努力を評価し、認めるなど、道德的実践意欲が高まるよう、評価方法を工夫・改善する。		4
<b>主 要 事 業</b>	⑤ 命を大切にすることを心をはぐくむ道德教育の充実	
具体的取組計画等 「特別の教科 道德」や教育活動全体を通じて、自他の命がかけがえのない大切なものであることを学ぶ機会を計画的に設定し、命を尊重する心を育むよう努める。		4

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
・前期課程は、「特別の教科 道德」について、年間指導計画や別業(自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくかが分かり、道德の時間以外の指導内容や時期が明確になるもの)を活用し、計画的に実践してきた。道德推進教師を中心に、指導方法や評価方法について校内で研修している。 ・後期課程では、「特別の教科 道德」について、9年間を見通して各教科や行事との関連性を図りながら、年間指導計画に基づいて実施した。通信票の評価の在り方や所見の記入文例について、研究主任から様々な資料等が提示され、共通理解して取り組むことができた。 ・今年度は、「命を大切にすることを心」について、発達段階に応じて適宜指導を継続してきた。年間を通して、校長の講話の中に「相手への思いやり」「感謝の心」が位置付けてられており、教職員全員が共通理解し、指導に当たった。また、道德の時間だけでなく、継続して指導してきた。	
4	

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### (3) 望ましい人間関係づくりを目指す生徒指導の充実

主 要 事 業	① 児童生徒理解を基本に据えた積極的な生徒指導の推進	
具体的取組計画等 児童生徒の健全育成のために、色麻学園の教職員が共に児童生徒の実態把握に努め、共通理解のもと、発達段階を考慮した基本的な生活習慣やあいさつ、規範意識の向上等の指導及び、一貫した積極的な生徒指導に当たる。		4
主 要 事 業	② 個々の存在感を高め、正義感を持って生きる自己指導能力の育成	
具体的取組計画等 児童生徒が自己実現を図っていくための自己指導能力を育成するために、各教科・領域の学習活動や学校行事において、児童生徒一人一人が自らの行動を自分で決定できる場面を設定する。また、他人から認められたり、困難を克服して目標を達成したりする体験等を通じ、自信をもたせ、自己存在感を高められるよう努める。		4
主 要 事 業	③ いじめや不登校の未然防止及び早期発見・対応を図る指導体制の充実	
具体的取組計画等 日常から細やかに児童生徒を観察するとともに、毎月いじめ問題等のアンケートを実施し、積極的な生徒指導を通して、いじめや不登校の未然防止・早期発見・迅速で適切な対応に努める。また、教職員間の綿密な情報交換や共通理解を基盤として、学校全体で組織的に指導できるよう校内体制を整備する。		4
主 要 事 業	④ スクールカウンセラー等との連携を図り、速やかに相談できる教育相談体制の充実	
具体的取組計画等 児童生徒や保護者、教職員が気軽に教育相談できるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図り、相談体制の整備を図る。また、必要に応じて外部の相談機関を積極的に活用するなど、教育相談体制の充実に努める。		4
主 要 事 業	⑤ 家庭や地域、関係機関と連携した生徒指導体制の充実	
具体的取組計画等 年間2回の「いじめ・生徒指導等問題対策会議」の開催や学校改善アンケート(保護者アンケート)の実施等を通じ、家庭や地域、関係機関との連携と情報共有を図り、保護者や地域等の理解と協力を得ながら児童生徒の指導に当たる。		4

# 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

成果と課題

総合評価

4

・学校生活アンケートを毎月実施し、意識調査をしている。アンケート内容について、10年部も全てに目を通して、いじめの初期対応が迅速に対応できるように努めている。  
 ・「子どもの心のケアハウス」との連携により、当該児童生徒の学習の機会が確保され、登校の機会や学校行事に参加する機会が増えた。  
 ・個別の支援計画のもと、保護者のニーズへの対応や助言、提案等を積極的に行ってきた。さらに、不登校傾向の児童生徒や課題を抱えている保護者に対して、SCやSSW、子育て支援室、まなウエルなどの外部機関と連携を図り、保護者の支援とともに児童生徒への適切な支援をすることができた。  
 ・年間2回の「いじめ・生徒指導等問題対策会議」の開催においては、児童生徒の現状や、いじめの認知件数を公表するなど、家庭や地域、関係機関と情報共有を図りながら、児童生徒の指導に当たってきた。

## (4) 望ましい集団づくりを目指す特別活動の推進

主 要 事 業	① 各教科・領域との関連を図った学校行事等の教育活動の充実	
具体的取組計画等	各教科・領域との関連を図り、自主的、実践的な活動の過程を重視して指導に当たるとともに、学校行事等とおして児童生徒に身に付けさせたい力を明確にして、教育諸活動の充実に努める。	4
主 要 事 業	② ボランティア活動等異年齢集団による体験的な活動の充実	
具体的取組計画等	義務教育学校の利点を生かした全校での学校行事やあいさつ運動、たてわり活動、児童会活動や生徒会活動など体験的、実践的な集団活動の場を計画的に設定し、異学年集団による交流活動の一層の充実に図る。	4
主 要 事 業	③ 家庭や地域と連携した体験的な活動の推進・充実(社会教育との連携)	
具体的取組計画等	各学年が家庭と連携したPTC活動や地域社会と連携した職場体験学習の充実、公民館等が行う学習・体験講座等を活用したりするなど、社会教育との連携に努める。	4

# 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

## 成果と課題

総合評価

4

・児童会生徒会が連携し、学園全体の課題等について、話し合うことができた。運動会や学園祭などでも、後期課程生徒の活動を身近で見たり一緒に活動することができ、共に成長できる場面が多くあった。  
 ・学級力アンケートを毎月全学級で実施している。レーダーチャートでまとめ、児童生徒に提示し、学級の課題を具体的に捉えるとともに、課題を改善する方策を自主的に考え各学級で話し合う機会になっている。今後もアンケートを継続し、よりよい学級づくりに取り組めるよう指導していく。  
 ・生涯学習課との連携により、各学年での総合学習や家庭科等で、地域の方々に授業に入って、指導していただく場面を多く設定している。前期課程は、PTC行事を1年に1回開催し、親子でのレクリエーション活動を行うことができた。

## 4 健康でたくましい児童生徒をはぐくむ教育環境づくり

### (1) 進んで運動に親しみ、生涯スポーツの基礎を培う教育活動の推進

主 要 事 業	① 心身の発達段階に応じた指導の推進・充実	
具体的取組計画等		
体育科の年間指導計画に基づき、体力・運動能力の向上と運動の楽しさを実感させる指導に努める。また、水泳記録会、縄跳び等を通して、持久力の向上に努める。(前期課程) 保健体育科の年間指導計画に基づき、保健体育の時間を通して体力や運動能力の向上に努める。また、陸上大会や駅伝大会等を活用し、持久力の向上に努める。(後期課程)		4
主 要 事 業	② 体力・運動能力の向上を目指した日常的な体育活動の充実(社会体育との連携)	
具体的取組計画等		
体育科の指導方法を工夫・改善するとともに、日常的に校庭での外遊びを奨励したり、体力・運動能力の重要性について、家庭や地域の人々に啓発を図ったりすることで体力の向上を図る。 保健体育科の授業や部活動の指導方法の工夫を図り、生徒が自発的・主体的に運動・スポーツに親しむことで体力や運動能力の向上に努める。		4

## 成果と課題

総合評価

4

・色麻学園での体力・運動能力調査の結果から、児童生徒の体力低下傾向が見られた種目があったので、その改善に向け、授業前の準備運動として「色麻サーキット」を考案した。体力運動能力調査の種目に合わせて内容の運動を盛り込んだ、オリジナルのサーキットとなっている。全学年が、体育の準備運動に合わせて実践している。  
 ・後期課程の生徒は、前期課程にいた時よりも休み時間の外遊びがほぼ無くなったため、昼休みに中講堂を解放し、体を動かす機会を設定した。多くの生徒が休み時間に中講堂で運動する姿が多く見られるようになった。

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

### (2) 食生活に関する正しい知識と望ましい食習慣形成を図る食育指導の充実

主 要 事 業	① 発達段階に応じた食育指導及び給食指導の実践と改善	
具体的取組計画等 食に関する指導の6つの視点(食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化)に基づき、系統的・継続的に学級指導を行うとともに、給食センターの栄養士による食育指導・給食指導を工夫して行うように努める。		4
主 要 事 業	② 家庭や地域と連携した食育指導の充実(食習慣形成と生活習慣病予防)	
具体的取組計画等 各種便りを通して、各時期に応じた食の重要性を家庭や地域の人々に啓発を行う。また、家庭や地域と連携し、児童生徒の生涯を通じた望ましい食習慣の形成や生活習慣の改善を図る。		4

### 成果と課題

総合評価

4

- ・給食センターの栄養士による食育指導・給食指導を行うことができた。
- ・家庭科の教諭が、廊下の掲示板を使用し、食育の啓発を行った。栄養と体づくりとのつながりの大切さや、季節ごとの食に関する情報など、児童生徒が興味を持って見る姿が多く見られた。食への意識を高めることができた。
- ・望ましい食習慣の形成や生活習慣の改善については、給食だより等で、今後も継続して家庭に啓発を図っていく。
- ・児童が育てた野菜を給食の食材として使用し、食への関心を高めることができた。

### (3) 健康で安全な生活を送るための保健・安全指導の充実

主 要 事 業	① 発達段階に応じた保健・安全指導の推進・充実	
具体的取組計画等 学校保健計画・学校安全計画に基づき、心や体の健康、歯の健康、薬物乱用防止等の指導の充実を図る。学校医、栄養士、関係機関との連携を図り、保健・安全指導の充実を図る。		4
主 要 事 業	② 心身の健康や安全に関する自己管理能力の育成	
具体的取組計画等 児童生徒の心身の健康の保持増進を期し、各種健康診断や身体計測、保健の授業等を通じ、学級担任と養護教諭が連携を図り、健康について、児童生徒の関心を高める。また、避難訓練、交通安全教室をとおして、安全確保の方法を理解し、安全に行動できるよう安全指導の工夫・改善に努める。		4
主 要 事 業	③ 各教科、道徳、特別活動との関連を図った性に関する指導の推進・充実	

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

具体的取組計画等	各教科・領域等の関連を図り、年間指導計画を整備して、教育課程全体を踏まえた発達段階に応じた性に関する指導を適切に行う。	4
<b>主 要 事 業</b>	④ 発達段階に応じた放射線やその影響に関する適切な指導の推進	
具体的取組計画等	放射線とその利用における課題について、児童生徒向けの資料や視聴覚教材等を活用し、発達段階を考慮した指導を行う。	4

<b>成果と課題</b>	総合評価	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健指導や交通安全指導、避難訓練等を薬剤師や消防署、警察署等、各機関と連携を図りながら継続的に行った。</li> <li>・食物アレルギー等、配慮を要する児童生徒について調査票を作成し、保護者及び養護教諭、栄養士、教頭と情報を共有し安全面に十分配慮している。また、年度初めに校内でエビペン研修会を学園全体で行い、全職員が共通理解・共通行動できるようにした。</li> <li>・火災想定避難訓練では、実際に防火扉と防火シャッターを作動させた訓練を行っている。児童生徒は、避難の仕方を具体的に考えることができた。教職員も実際の動きを確認することができた。自分事として命を守る行動ができるよう訓練の内容、時期を検討するなど、安全指導をより改善・工夫していく必要がある。</li> <li>・家庭や地域との連携を図るとともに、各教科・道徳・特別活動の関連と系統性を踏まえた指導計画の見直しを継続的に行い、今後も計画的に保健指導や安全指導の充実に努めることが必要である。</li> </ul>		

### 5 教職員と家庭・地域が誇れる学校づくりの推進

#### (1) 家庭や地域と連携した教育活動・環境整備の推進・充実

<b>主 要 事 業</b>	① 家庭・地域と連携した各種教育活動の推進	
具体的取組計画等	各種たより、懇談会、諸会議等を通して、教育諸活動のねらいを明確に示し、家庭や地域、関係機関と連携してそれぞれの人的、物的資源を活用した教育活動の推進に努める。	4

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

主 要 事 業	② 交通安全及び不審者対策における連携・強化	
具体的取組計画等  各種たより、懇談会、諸会議等を通して、家庭や地域、ウォーキングパトロール隊、関係機関等との一層の連携を図り、児童生徒の登下校時の安全を確保に努める。		4
主 要 事 業	③ 学校周辺や通学路等の学校環境の安全確保	
具体的取組計画等  定期的な学区内巡視を行うとともに、PTAと連携を図り、通学路及び地区の危険箇所の点検を実施し、必要な場所に赤旗を設置することにより、児童生徒への注意喚起を促す。		4

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、民生児童委員による下校時の見守りの協力をいただき、安全な下校につながることができた。さらに、今年度は見守りボランティアの方々の協力をいただき、下校時の安全を図ることができた。</li> <li>・教職員による不審者対応訓練を行った。また、「色麻学園保護者カード」は、来校時に保護者に必ず着用するよう呼び掛けている。今年度も、全て施錠することとし、正面玄関のインターフォンだけでなく、センサーを設置し、利用している。</li> <li>・PTAとの連携では、赤旗設置については、地区ごとの管理ができないという課題があり、廃止となった。その代わりに、危険箇所について情報を集め、写真入りの「色麻学園危険箇所マップ」を作成している。HPにアップすることで、誰でも確認できるようにした。</li> </ul>		

### (2) 教職員の研修の充実と実践的研究の奨励

主 要 事 業	① 学校課題を捉えた研究・研修の推進	
具体的取組計画等  「チーム色麻」として小中一貫教育を推進するために、小・中教職員が児童生徒の実態を把握し、学校課題を共通理解するとともに、課題解決に向けて教職員が協働で校内研修に取り組む。また、校内研究で目指す方向性を共通理解し、一人一人の実践力を強化しながら組織として学校の教育力を高める。		4
主 要 事 業	② 専門職としての資質を高める研修の充実	
具体的取組計画等  各基部長のリーダーシップを生かし、研究授業、事後検討会を行い、PDCAサイクルによる授業改善を計画的に図り、教職員一人一人の授業力向上に努める。また、新たな課題やカリキュラムマネジメント力の強化、アクティブ・ラーニング等に対応していくために、各種研修会への参加を促し、校内での伝講や研修機会の充実に努める。		4

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

主 要 事 業	③ 職責や分掌に即した個人研究の奨励	
具体的取組計画等 教職員一人一人の担当や校務分掌などに即した個人研究を奨励し、個々の教職員の実践力強化を図るとともに、各教職経験段階や職能・教科等における指導力の向上に努める。		4
主 要 事 業	④ 幼稚園・保育所及び小・後期課程教職員との合同研修の充実	
具体的取組計画等 幼小連携において、教職員の交流や合同の研修、学習活動の中で幼児、児童の交流の充実を図り、教職員の相互理解と幼保小のなめらかな接続に努める。		4

### 成果と課題

総合評価

4

- ・義務教育学校として、前期・中期・後期の期部会を設定し、9年間の系統性を踏まえた授業実践、授業改善の取組を継続している。前期課程・後期課程との連携、教員相互の学び合いによって教員の指導力向上につながっている。
- ・幼小連携について、交流会や情報交換会を行った。年長児と1年生の交流によって双方に達成感や自信、安心感を持たせることができた。また、こども園(幼稚園)との研修・情報交換により、「スタートカリキュラム」と「アプローチカリキュラム」の系統性を確認し、園児と児童への切れ目ない支援につなげることができた。特別な配慮を要する児童については、こども園や幼稚園と適切に情報交換を行い、指導に生かすことができた。
- ・引き続き、各幼稚園等との交流や情報交換の機会を持ち、幼小の円滑な接続を確実に進めていく。

### (3) 教職員の服務規律遵守の徹底

主 要 事 業	① 教育公務員としての自覚と規律の遵守	
具体的取組計画等 定例の打合せや職員会議をはじめ、日常からあらゆる機会を通じ、教育公務員としての自覚を促し、凡事徹底と服務規律の遵守の徹底を図る。		4

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

主 要 事 業	② 職務遂行における危機管理意識の高揚	
具体的取組計画等  危機管理マニュアルを整備し、事故等の未然防止と災害や事故発生時における迅速な対応に関する研修等の充実を図り、危機管理意識の高揚に努める。また、明るく風通しのよい職場環境づくりに努め、日頃から報告・連絡・相談・確認についての意識を高める。		4
主 要 事 業	③ 児童生徒や保護者及び地域との信頼関係の確立	
具体的取組計画等  地域に開かれた学校を基本とし、学校の様子を学校・学年・学級だよりや懇談会等をとおして保護者に発信するとともに、学校改善アンケート(保護者アンケート)の結果を教育活動の改善に生かすことで信頼関係の構築に努める。また、地域に向けて、学校だよりを地区内にて回覧し、学校の様子や児童生徒の活躍の様子を積極的に発信するよう努める。		4

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な職員会議や打合せの中で、服務規律の遵守と危機管理意識の啓発を継続して行ってきた。今後も教育公務員としての役割と責任の重さについては、研修や情報交換を充実させることで自覚と服務規律の遵守の徹底を図りたい。</li> <li>・学校での児童生徒の様子、地域との連携などを各種たよりやHP、懇談会等で積極的に発信した。</li> <li>・年2回の学校評価アンケートを実施し、よりよい教育活動の実施のために、全職員でアンケート内容を共有し改善策を考えることができた。</li> </ul>		

### (4) 教職員の健康管理と福利厚生 の充実

主 要 事 業	① 全教職員の健康(心身の状態)管理と個々に応じた支援体制の充実	
具体的取組計画等  日頃から職員間・職員と管理職間での会話や風通しのよい職場環境づくりに努め、全教職員の心身の状況を把握して適切な支援を行う。また、必要に応じて養護教諭や保健主事の協力を得て、多様な視点から状況に応じた指導助言を行う。		4

## 義務教育学校「色麻学園」 事務事業点検評価

主 要 事 業	② 各種休暇の有効利用の促進	
具体的取組計画等 教職員の心身の健康の維持・増進のために、年次休暇やリフレッシュ休暇など、各種休暇の有効活用を促す。また、効率的な勤務の推進について指導助言を行ったり、必要に応じて「健康相談」を勧めたりする。		4
主 要 事 業	③ 職場単位及び職場相互の福利厚生活動の推進	
具体的取組計画等 全教職員の心身の健康維持と増進に向けて、様々な福利厚生活動を実施する。		4

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から、毎週月曜日を定時退勤日として設定し、教職員の勤務時間に対する意識の見直しを促した。昨年度より減少傾向になりつつある。</li> <li>・保護者からの電話対応についても、長時間になる場合が多かったので、できる限り勤務時間内での対応とするよう、学校だよりで保護者に協力をお願いしている。今後も、会議や行事等精選や教育活動の効率的な運営ができるよう、工夫改善を図っていく。</li> </ul>		

# 社 会 教 育

## 1 生涯学習社会の推進

### (1) ライフスタイルに応じた学習機会の提供

主 要 事 業	① 出前講座等を活用した学習機会の提供	
具体的な取組 ・出前講座メニューの定期的な見直しを図り、町民が親しみを持って参加出来る内容の講座開催に努める。 ・しかま学びのテラスでは、町民の興味関心・参加意欲が高い内容の講座開催に努める。		4
主 要 事 業	② 広報紙や町のホームページ等を活用した学習情報の提供	
具体的な取組 ・町ホームページやSNSを活用した学習情報の提供 ・町広報紙による学習情報の提供 ・生涯学習「出前講座」メニュー表による学習情報の提供 ・学習活動募集案内による学習情報の提供		3

### 成果と課題

総合評価

4

・令和6年度の出前講座では、昨年度に引き続き、色麻町に関する内容(観光や歴史など)についての、色麻学園後期課程での利用があった。また、地区内ミニデイからのニューススポーツ体験教室依頼が増え、簡単な運動を楽しむ機会が増えた。今後も、様々な分野を気軽に学習できる機会を提供したい。 ・学習機会の情報提供を町ホームページや町広報誌等を活用し、情報発信を行った。今後、SNS等も活用した学習機会の情報発信に努め、学習機会の提供を行う必要がある。 ・しかま学びのテラスでは、元オリンピック選手(あん馬)の亀山耕平氏をお招きし「言葉の力」と題し、色麻学園後期課程180名を対象に講演会を実施した。跳び箱を使った迫力ある実技に魅了された生徒たちは、夢を追い続ける大切さを学ぶことができた。また、11月には、町民一般及び体育団体関係者62名が参加し甲子園3季連続準優勝に導いた金澤成奉氏の講演会が実施された。その中で、一人一人の子どもと丁寧に向き合う指導と、「自立と自律」の指導についてご講話いただき、教育効果を図るための学びの場につなげることができた。	
---	--

### (2) 組織化支援とつながりづくり

主 要 事 業	① 学校、家庭及び地域住民等相互の連携・協力の推進	
具体的な取組 学校からの要請に基づき、地域教育力を活用した学校支援ボランティア登録者リストの中から関係団体等へ依頼を行い、ボランティアや講師を派遣・活用し各事業や教育の効果を高める。また、学校支援ボランティア登録について昨年度から引き続き見直し、整理を図る。		4
主 要 事 業	② 新たな指導者の育成とボランティアの養成	
具体的な取組 ・各種事業にボランティアとしての参加を促し、ボランティア活動ができる環境づくりに努める。 ・運動会スタッフ、読書ボランティアなど、地域のニーズと町民の間をコーディネートし、ボランティアとして参加する側にとっても生きがいにつながるような活動の機会を提供する。		4

## 社会教育 事務事業点検評価

主 要 事 業	③ 既存のサークル活動への支援
具体的な取組 施設情報や学習情報の提供など、生涯学習活動に取り組んでいるサークルへの活動支援を行う。	
4	

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
4	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマーキャンプやこどものまち等の「地域活動」や、米作り指導や裁縫指導等の「学校支援」は、活動内容や参加人数等がコロナ禍以前の水準に戻った。また、本年度実施の作物栽培補助の活動において、ボランティアの方々との連絡調整が遅れることが多々ありご迷惑をおかけしていたことがあった。次年度は早期の連絡調整を行い、より多くのボランティアの方々にご協力を要請し、活動に参加しやすい環境づくりに努める。</li> <li>・下校時見守りボランティアでは、安心安全に下校できるよう、ボランティアからの提案もあり、年度初めに児童生徒との顔合わせを出来る機会を作ることで調整を行い実施する。</li> <li>・今後も学校・家庭・地域がそれぞれ適切な役割を担いながら連携していくことが必要である。また、将来の地域を担う子ども達を育成するためにも、学校支援活動に携わるボランティアの呼びかけが必要である。</li> <li>・今年度は新たに活動を始めた読書ボランティアグループが出来たため、引き続き活動の支援を行っていく。</li> </ul>	

### (3) 生涯学習施設の効果的活用の促進

主 要 事 業	① 生涯学習施設を気軽に利用できる環境づくり
具体的な取組 施設を利用する手続きの簡素化を図り、利用規程などを明確にしながら運用し、生涯学習活動の場として有効に活用する。	
4	

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
4	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設とも社会教育施設として積極的かつ親しみと愛着を持って施設を利用している。</li> <li>・利用予約については、冬季期間はスポーツ施設が通常期間より、多くの利用団体で混み合うため、利用者(団体)調整会議を行い、施設の貸出を行っている。また、多くの人々が利用できるよう予約開始日等のルールを整理し、町行事や学校教育での利用、その他一般利用者が円滑に利用できるように努めた。</li> <li>・清水体育館が管理に加わったため、一般利用できるよう施設及び備品等の整備を行った。今後の貸出業務が円滑にできるよう、継続的に整備を行っていく。また、清水体育館の利用については、適宜こども園と調整を行い、管理を行っていく。</li> <li>・各施設の経年劣化に伴う修繕が必要な部分については財政担当と協議し進めており、令和6年度は屋外運動場のフェンス改修工事を行った。次年度以降も計画的に町内施設の修繕等を進めていく。</li> </ul>	

## 社会教育 事務事業点検評価

### (4) 面白そう・楽しそうな青少年の体験活動

主 要 事 業	① 郷土学習「色麻学」の実践
具体的な取組	
色麻学プログラムを基に郷土学習「色麻学」実施委員会において事業内容、開催時期等について決定し実施する。	3

#### 成果と課題

総合評価

3

・令和6年度は青年層の事業として「色麻町の山野草について」と「天文教室」を企画し、実施した。山野草については、参加者が熱心に講師の話聞き、質問を行うなど活発な事業となった。また、天文教室では親子での申込みが多くあったが、流行病の関係で参加者数は少なくなりましたが、多くの方の関心を引くことができた。次年度も内容を精査し、実施していく。

### (5) 地域福祉・地域医療を支える学習活動

主 要 事 業	① 「活き生き長生き」講座とのタイアップ
具体的な取組	
保健福祉課とのタイアップ事業「活き生き長生き」講座を定期的実施する。	3

#### 成果と課題

総合評価

3

健康で自分らしい生き方を実現するために、身近で生きがいにつながる学習講座を提供し、高齢者の健康習慣づくりや交流の場を提供することができた。年間を通して事業を実施し、共に学ぶ楽しさを味わい、交流を深めることをねらいとして、豊齢者学級単独事業にも取り組むことができた。令和6年度は、全3回開催し、102名の方に参加いただいた。次年度も多くの方に参加いただけるように企画して実施していく。

### (6) 学校を核とした地域づくり

主 要 事 業	① 色麻学園「総合的な課題学習」への支援
具体的な取組	
総合的な課題学習や家庭科、社会科などその他授業等での講師やボランティア派遣の充実を図る。	4

## 社会教育 事務事業点検評価

### 成果と課題

総合評価

4

・令和6年度も、昨年度からの継続的なボランティア活動が多く、適宜支援に当たることができた。  
 ・学校支援は、「米づくり指導」では田植え体験・稲刈り体験を児童を交えて実施することができた。また今年度は脱穀の様子を児童が見学することができたので、充実した内容になったと感じる。ただ、日程調整が難しく、実施時期が大幅に遅れてしまい、協力者へ不便をかけたことから、次年度はある程度年間の予定を計画し実施していく必要がある。  
 ・その他の学校支援では、各団体からご協力いただき、今年度は「花植え」「野菜作り」「畑整備」「えごま栽培」「手縫い・ミシン指導」と手厚い支援ができた。今後、他の支援についても学校の要望に応じて対応していく。

## 2 ライフステージに応じた社会教育「学び」の充実

### (1) 幼児の「学び」の充実

主 要 事 業	① 幼児期の子どもを対象とした情操教育の場の提供	
具体的な取組		
幼児教育事業では、体育遊び、音楽遊び、演劇鑑賞を通し情操教育の場を提供する。		3
主 要 事 業	② こども園及び子育て支援センターとの連携強化	
具体的な取組		
こども園、子育て支援センターとの連携と情報交換を深め、内容を検討しながら事業を進める。		3

### 成果と課題

総合評価

3

・講師の選定や実施日等については、対象であるこども園・子育て支援センターの担当者と打ち合わせを行った上で実施している。今年度、子育て支援センターの親子を対象とした事業は計画通りに実施することができたが、こども園については実施に向けて協議を重ねたが叶わなかった。令和7年度は10月頃にこども園の園児を対象に演劇鑑賞会を予定しており、引き続き情操教育の場を提供していく。

### (2) 家庭の「学び」の充実

主 要 事 業	① 家庭教育講演会の開催	
具体的な取組		
学習参観日など保護者が集まる機会を活用して、色麻学園の保護者等を対象に子育て、子どもの生活習慣、食育などをテーマとした「家庭教育講演会」を開催する。		3

## 社会教育 事務事業点検評価

主 要 事 業	② 家庭教育に関する情報提供
具体的な取組 子育てに必要な家庭教育情報などを記載した広報紙を発行し、家庭教育に関する情報を提供する。	
<b>4</b>	

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
・学校では授業参観をフリー参観として実施しており、大勢の人が集まることが難しい状況となっているため、学校からの要望に応じて講演会を実施している。今年度は要望がなかったため、講演会の実施は行っていない。 ・地域学校協働活動の家庭教育支援活動では、家庭教育情報紙「ほっとたいむ」を年3回発行や、公民館に家庭教育に関する掲示板を設置し、毎月掲示内容を更新して家庭教育情報を発信した。 ・町主体の実施ではないが、加美農業高校で宮城県がメニューを持っている「親のみちしるべ」を生徒を対象に実施した。その際、宮城県家庭教育支援チーム員として推薦している、町の家庭教育支援チーム員が参加し、事業を行っている。 ・今後色麻学園及びこども園の保護者を対象とした事業も検討していく必要がある。	
<b>4</b>	

### （3）青少年の「学び」の充実

主 要 事 業	① 地域教育力の再生に向けた青少年の体験活動の提供
具体的な取組 地域の教育力を活用し、地域の協力をいただきながら、サマーキャンプ、こどものまちなどの体験活動を実施する。	
<b>3</b>	
主 要 事 業	② 地域ぐるみで青少年を守り育てる体制の整備
具体的な取組 色麻町青少年問題協議会を開催し、地域の青少年が抱える問題やその対策等について関係機関並びに関係各課及び関係者等で情報を共有し、地域の青少年の健全育成を図る。	
<b>4</b>	
主 要 事 業	③ ジュニアリーダーの育成と地域貢献の機会拡大
具体的な取組 ジュニアリーダーの初級、中級、上級の各研修会や単位子ども会への派遣、こどものまち等の各種事業を通して、資質の向上を図る。 ・ジュニアリーダーの企画による夏休み工作教室の開催。 ・こどものまちへの参加、協働 ・初級、中級、上級等の各研修会に参加し、スキルアップを図る。	
<b>3</b>	

## 社会教育 事務事業点検評価

主 要 事 業	④ 青年の地域活動支援
具体的な取組 青年層が中心となり、大崎管内市町等が実施する、青年層が中心となる「大崎地方青年文化祭」等事業に参加し、青年の交流を図るとともに、伝承文化の継承に努める。	
<b>4</b>	

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度の「サマーキャンプ」は、学園の先生方から声がけを行っていただいたこともあり、多くの児童が参加した。松島自然の家のメニューを中心に内容を計画し、野外炊飯時には防災教育の要素を取り入れるなどを行った。</li> <li>・「こどものまち」では、選挙等の兼ね合いもあり、開催日が急遽変更となったが、ボランティア及び参加者へ連絡調整を行い、無事開催することができた。しかし、ボランティアの出欠状況により予定していた企画が出来なかったなどもあったため、次年度では計画的に実施したい。</li> <li>・青少年問題協議会は、年に一度開催し、青少年教育に携わる団体等との情報交換を行っている。</li> <li>・大崎地方青年文化祭は、令和6年度は加美町が会場となり、地元団体が多く参加し、SDGsを取り入れた内容で開催された。昨年度とまた内容を大きく変え、大崎管内の青年団体の発表及び交流の場となっていた。</li> <li>・ジュニアリーダーについては、令和6年度に新規メンバーが3名加入し活動がより活発になってきている。ボランティアとして様々な事業に参加し協働することでジュニアリーダーとしての資質向上を図ることができた。また、自主企画事業「おぼけやしき」では、延べ349名のお客様にご入場いただくなど、ジュニアリーダーの認知度も上がってきている。</li> </ul>	
<b>4</b>	

### （4）成人の「学び」の充実

主 要 事 業	① 成人式の開催
具体的な取組 ・式典は成人者による実行委員会が主体で実施する。式辞、祝辞、町民憲章の朗読等、新成人の門出を祝う。成人者、恩師、来賓へ寄稿を依頼し、記念紙「はたち」を作成する。	
<b>4</b>	

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人式実行委員会を中心に周知をスムーズに行え、式典当日に該当者80名のうち64名と多くの方に出席いただいた。</li> <li>・町内在住の外国人の方1名が出席することになったが、式典終了までしっかり対応できた。</li> <li>・記念誌作成のデータ入力を依頼した際に、「写真はどのようなものを選べばいいかわかりにくい」と意見があった。次年度からはGoogleフォームに記載する等対応を行う。</li> <li>・来賓をどの範囲で招待するか、特に恩師については今後どのようにするか検討する必要がある。</li> <li>・令和6年度は成人式実行委員会と協議の結果、ゲストを招待してのアトラクションを行わずタイムカプセルの開封を行った。次年度からの成人式では、アトラクションの必要性について検討する必要がある。</li> </ul>	
<b>4</b>	

## 社会教育 事務事業点検評価

### (5) 女性の「学び」の充実

主 要 事 業	① 女性の特性を活かした地域社会活動への参加の推進
具体的な取組	
婦人会活動への支援、協力をを行い女性の地域活動への参加促進を促す。	
<b>3</b>	

#### 成果と課題

総合評価

**3**

・地域のつながりが薄れていく中で、婦人会では会員相互の連携と親睦を図り、組織強化に努めている。会員数の減少が課題ではあるが、これまでのやり方や取り決めに縛られず、会員が負担なく楽しみながら活動ができるような雰囲気を作り出している。令和6年度も町主催行事等には積極的に参加協力し、健康や食、防災等に関する研修を積み知識や教養を深めることができた。

### (6) 高齢者の「学び」の充実

主 要 事 業	① 高齢者の「健康」と「生きがい」につながる学習講座や研修の実施
具体的な取組	
豊齢者学級において、健康づくりや消費生活など、身近で生きがいにつながる学習講座を提供するとともに、通年をとおして事業を展開し、共に学ぶ楽しさを味わい、交流を深めることをねらいとして、豊齢者学級単独事業にも取り組んでいく。 ※「活き生き長生き講座」とのタイアップ事業を含む。	
<b>4</b>	

#### 成果と課題

総合評価

**4**

・活き生き長生き講座(3回開催)  
 ・移動研修会(登米市方面)1回開催  
 ・年間を通して共に学び、交流を深めることをねらいとして事業を計画していたが、参加人数や天候の関係で計画通りできないものもあった。周知の方法や、事業の開催時期の見直しを行う必要がある。

## 3 図書事業の推進

### (1) 図書への興味関心を引く環境づくり

主 要 事 業	① 学校図書館(公民館図書コーナー)の環境づくり
具体的な取組	
魅力的な書棚づくりを工夫し、季節ごとにミニ企画展示や新着本の紹介をするなど、多くの町民が気軽に訪れることができ、居心地の良い施設環境づくりに努める。	
<b>3</b>	

## 社会教育 事務事業点検評価

主 要 事 業	② おはなし会の開催
具体的な取組 町内の認定こども園や子育て支援センターの親子を対象に、外部講師を招いておはなし会を開催する。 また、学校図書館内にて、読書ボランティア等による読み聞かせや工作を中心としたおはなし会を実施する。	
<b>3</b>	

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
・話題の本やリクエスト本等といった利用者のニーズに合わせた図書の購入をはじめ、分かりやすく利用しやすい書棚作りを目指し、読書環境の充実を図っている。外部講師を招いてのおはなし会は、学校図書館と子育て支援センターにて開催することができた。母親の膝の上で安心した表情で絵本に集中する子ども達が印象的であったが、おはなし会後は保護者から講師へ質問や相談が寄せられるなど、親子で楽しめる内容であった。	
<b>3</b>	

### (2) 読書習慣の定着が図られるような図書環境づくり

主 要 事 業	① 移動図書館車「なかよし号」の巡回
具体的な取組 移動図書館車「なかよし号」で町内の認定こども園や子育て支援センター、子どもの心のケアハウスを巡回し、本の貸出を行う。	
<b>3</b>	
主 要 事 業	② 読書ボランティアの養成
具体的な取組 ・養成講座への受講を促し、図書ボランティアとしての技術を習得しスキルアップにつなげていく。 ・図書まつりの開催 ・おはなし会の実施(毎月第4土曜日)	
<b>3</b>	

<b>成果と課題</b>	<b>総合評価</b>
・今年度も例年通り実施を計画していた移動図書館車なかよし号は、老朽化のため運行ができなくなってしまった。しかし、子育て支援センターには定期的に巡回し絵本の貸し出しを行っている。子ども達が自ら選んだ絵本を借りて読むという機会は、読書習慣が身に付くきっかけとなっている。また、これまで時期をずらし別々に開催していたリサイクルブックマルシェと図書まつりを、今年度は合体して1日で開催した。悪天候ではあったが、これまでより幅広い年齢層のお客様にご来場いただき、盛会のうちに終えることができた。毎月第4土曜日に開催していた読書ボランティア等による学校図書館でのおはなし会は、参加者が集まらず休止しているが、町社会福祉協議会にて実施しているブックスタート事業と連携し、1歳児健診の会場内にて健診待ちの親子へ向けて図書館のPRや絵本に親子ふれあえる取り組みを行っている。令和7年度は、読書ボランティア養成をかねてブックスタート事業研修を実施できるよう、打ち合わせや視察を行っている。引き続き利用促進を図るため、イベント等の実施やより良いサービスの提供などを検討していく必要がある。	
<b>3</b>	

#### 4 情報技術・視聴覚教育の充実と振興

##### (1) 大崎生涯学習センター（パレットおおさき）の活用促進と基本的知識や能力を習得する機会の提供

主 要 事 業	① 大崎生涯学習センターの利用案内
具体的な取組	大崎生涯学習センターが発行する各種チラシを設置、掲示する。また、町内の小学生を対象にプラネタリウム番組を観覧する機会を提供する。
	3

##### 成果と課題

総合評価

3

・大崎生涯学習センターのポスターやチラシを掲示し、行事や事業について周知に努めている。また、町内の小学生を対象とした事業「プラネタリウムをみにいこう」を実施し、大崎生涯学習センターのプラネタリウム館にて、人気番組を鑑賞した。その他にも、ジュニア・リーダー自主企画「おばけやしき」を実施した際には、大崎生涯学習センターの備品であるおばけ用品を借用したことで、クオリティの高いおばけや環境を整えることができた。令和7年度も継続して利用機会を提供できるよう計画していく。

#### 5 芸術文化活動の振興

##### (1) 芸術鑑賞の機会の提供と拡充

主 要 事 業	① 巡回小劇場や青少年劇場小公演の企画と実施
具体的な取組	「みやぎの文化育成支援事業」を利用し、巡回小劇場や青少年劇場小公演を実施し、香り高い芸術の鑑賞機会、優れた音楽の鑑賞機会を提供することで豊かな情操を養う。
	4

##### 成果と課題

総合評価

4

・色麻学園前期課程・後期課程を対象に「連弾～1台のピアノと2人のピアニスト～」の公演をそれぞれ実施した。今回同じ演目の開催となったが、どちらの対象学年も熱心に聞いているようだった。ただ、今回開催した青少年劇場小公演は少人数向け(100名以内)の公演のため、次年度以降は人数の調整を行う必要がある。

(2) 芸術文化活動の担い手の育成

主 要 事 業	① 町文化協会の活動及び支援体制	
具体的な取組		4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さなぶり芸能大会を実施し、郷土芸能の振興を図る。</li> <li>・町民文化祭を実施し、文化協会加盟団体の作品展示を行い、学習発表の機会とする。</li> <li>・公民館に作品展示コーナーを設け、各団体の日頃の成果を披露する。</li> <li>・サークルへの活動支援として各種団体と連携・協力し、初心者向けの教室を開催するなど、新規参加を促す。</li> </ul>		

成果と課題	総合評価	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化活動の中心である文化協会と協力・連携して町民文化祭やさなぶり芸能大会を実施することで、文化活動の振興を図り、文化活動が活発になるよう努めている。</li> <li>・今年度は、色麻学園へ声かけを行い、若い方に多く出演いただいたため、さなぶり芸能大会も町民文化祭も、より多くの人に鑑賞してもらうことができた。</li> <li>・会員の高齢化が各団体の課題となっているため、初心者向けの講座を開催するなど、様々な文化活動に触れる機会を提供して新規参加者の増加を促していく必要がある。また、担い手育成という観点では、若い世代、特に郷土芸能活動団体の参加を、今後も継続的かつ積極的に促していく必要がある。</li> </ul>		

6 文化財保護体制の整備充実と活用の推進

(1) 文化財保護体制の整備

主 要 事 業	① 文化財保護管理事業	
具体的な取組		4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財パトロール: 県文化財保護地区指導員による埋蔵文化財の現況調査。</li> <li>・文化財防火デー(毎年1月26日)に、町消防担当課とともに町内文化財防火行事を行う。</li> <li>・南奥羽山系カモンカ保護地域の調査及び保護・記録のための対応。</li> <li>・文化財指定のための調査及び新規の文化財指定。</li> <li>・各種開発に際しての、埋蔵文化財保護のための協議、調査など。</li> <li>・文化財保護審議会による文化財保存及び活用に関する調査審議。</li> </ul>		

成果と課題	総合評価	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県事業である「文化財パトロール」については、県委嘱の指導員と連携を図り、報告書を作成した。報告書の内容を参考に、今後文化財保護に努めていく必要がある。</li> <li>・県指定文化財が安置される往生寺において、「文化財防火デー」に係る事業を令和7年1月24日に実施した。往生寺設備や訓練は問題なく終了したが、ここ近年は査察のみの実施となっているため、訓練の実施を今後検討していく必要がある。</li> <li>・カモンカ保護地域の通常調査が今年度より委託業者による調査実施となったため、要請があれば情報提供などを行っていく。</li> <li>・町文化財保護審議会では今年度は文化財関係の情報提供及び、今後町指定を行う文化財について意見をいただいた。文化財指定についての調査や協議については、今後審議委員に審議いただきながら検討していく。</li> </ul>		

## 社会教育 事務事業点検評価

### (2) 史跡の整備

主 要 事 業	① 史跡の整備	
具体的な取組		3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定史跡(国指定「日の出山瓦窯跡」・県指定「念南寺古墳群」)へのアクセス道路の整備。</li> <li>・老朽化した文化財標柱等の更新。</li> </ul>		

#### 成果と課題

総合評価

3

<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定史跡(国指定「日の出山瓦窯跡」・県指定「念南寺古墳群」)のアクセス道路整備を実施。今後も継続的な整備を行う。</li> <li>・「大谷地遺跡」の標柱の更新を行った。現在の文化財情報と異なるため、遺跡名を変更し「滝本A遺跡」の標柱として作成した。</li> </ul>
--

### (3) 伝統・伝承芸能活動の積極的な支援

主 要 事 業	① 伝統・伝承芸能活動の積極的な支援	
具体的な取組		4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町指定無形(民俗)文化財の奨励 「清水田植え踊り」、「清水神楽」</li> <li>・伝統芸能及び郷土芸能活動の奨励 「高城獅子躍り」、「カッパブギ色麻」、「仙北麦つき踊り」</li> <li>・町文化協会と連携し、伝統・伝承芸能の記録保存及び公開を行う。</li> </ul>		

#### 成果と課題

総合評価

4

<ul style="list-style-type: none"> <li>・さなぶり芸能大会、町民文化祭開催時に、伝統・伝承芸能の発表の場を設けた。その中で、町指定文化財である清水神楽や清水田植え踊り、仙北麦つき踊り、郷土芸能のカッパブギ色麻踊りが披露された。今後も町文化協会と連携し、伝統・伝承芸能活動の支援を行う。</li> <li>・色麻学園7～9年生の授業の中で、伝統・伝承芸能活動について出前講座を行い学習機会を持つことができた。色麻学園後期課程では継続的に伝統芸能(太鼓演奏・清水神楽)の学習を行っているため、今後も協力して伝統芸能の伝承を行っていく必要がある。</li> </ul>
--

### (4) 町内の文化財や資料展示室等を活用した学習機会の提供

主 要 事 業	① 町内の文化財や資料展示室等を活用した学習機会の提供	
具体的な取組		4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・色麻町に関する歴史などへの座学や町内史跡めぐり等の講師対応</li> <li>・資料展示室における各種展示及び関連事業の実施。</li> </ul>		

## 社会教育 事務事業点検評価

成果と課題

総合評価

4

- ・講師対応では、色麻学園6年生の授業、色麻学園教職員等への講師対応を行った。また、前項でも記述したが色麻学園後期課程で伝統芸能等について学習を行っており、色麻の歴史や郷土芸能について講師対応を行った。
- ・通常展示のほかに、「古墳の品々」と題し、令和6年5月21日(火)～5月28日(火)までの期間、念南寺古墳で発見された鶏型埴輪や色麻町内の古墳にスポットをあて、古墳から出土した考古史料を展示した。また、体験として東北歴史博物館より譲り受けた石棺の模型の中に入ることができるブースを設置。
- ・今後企画展の開催を増やし、来場者増加を図るため、内容を検討していく必要がある。
- ・色麻学園関係者以外にも学習機会を提供できるように、周知の方法を改めて考えていく必要がある。

### 7 生涯スポーツの推進

#### (1) 生涯スポーツの普及振興

主 要 事 業	① 町体育施設の環境整備	
具体的な取組		
町民が安全・安心で気持ち良く体育施設を利用できるよう維持管理に努める。		4
主 要 事 業	② 町体育施設の効率的運用	
具体的な取組		
・体育施設の利用状況や使用上の注意事項等を表示することで、体育施設の情報を提供し効率的な運営に努める。		4
主 要 事 業	③ スポーツ推進計画に基づく事業の推進	
具体的な取組		
色麻町スポーツ推進計画に基づき、町民がスポーツに取り組むきっかけづくり、組織づくり、ひとづくり、環境づくりを進める。		4

成果と課題

総合評価

4

- ・町民清水体育館駐車場整備の関係から、今年度利用は見送りとなった。多くの町民が、安全かつ快適に利用することができるように、2箇所の施錠設置、ジェットヒーターの導入など環境整備を行った。12月に実施した体育施設調整会議の中で、各種団体から利用希望があったため、次年度以降円滑に活用できるように調整していく。
- ・体育施設の維持管理を徹底し、予約方法にも一定のルールを設けて多くの利用者が気軽に体育施設を使用できるよう効率的な運営に努めた。
- ・テニスコートフェンスの経年劣化に伴い改修工事を行い、安全安心に使用できる環境整備に努めた。
- ・町民小体育館男子トイレ個室扉の修繕を行い、安全安心に使用できる環境整備に努めた。

## 社会教育 事務事業点検評価

### (2) 各種スポーツ大会の実施

主 要 事 業	① 町民大運動会の開催	
具体的な取組 町民で構成する実行委員会を中心に町民ボランティアの協力のもと、多くの町民がスポーツを楽しむことで、地域コミュニケーションの活性化を図る。		3
主 要 事 業	② 各種スポーツ大会の実施	
具体的な取組 町長杯のグラウンド・ゴルフ、パークゴルフ、ゲートボール大会を通し、町内愛好者の親睦と交流を深めながら、生涯スポーツの振興と健康の保持増進を図る。各種スポーツ大会を実施し、スポーツを通して健康増進と参加者同士の交流を図る。		3
主 要 事 業	③ 各種スポーツ教室の実施	
具体的な取組 スケートボード教室やHIPHOPダンス教室を実施し、スポーツに親しむ機会を提供することにより、参加者同士のコミュニケーションと健康増進を図る。		3

### 成果と課題

総合評価

3

- ・町民大運動会は、昨年度同様午前中の開催で計画したが、台風の影響から中止となった。今年度、近年の温暖化や人口減少の影響を鑑み、熱中症対策の検討や競技種目の見直しを行ったため、次年度に継続していく。
- ・町体育協会各部会主催のスポーツ大会については、全6大会計画し4大会を開催した。2大会は、雨天及び熱中症対策として中止した。
- ・町体育協会主催、公民館後援事業として、6月に「亀山耕平講演会」を行った。オリンピック出場元体操選手として活躍した経験を、「言葉の力」と題し講演会を行った。当日は、一般町民、町スポーツ団体関係者、学校関係者など60名が参会し学びを共有することができた。11月には、町民秋祭りの一画で「ニュースポーツ体験会」を実施した。新しく導入したバグーやモルックに興味が集まり110名の方が参加したため、今後も生涯スポーツの普及に努めていく必要がある。
- ・スポーツ教室を通して、運動のきっかけ作りを行い、主体的に運動する楽しさを推奨していく。

### (3) 子どもの体力・運動能力の向上に向けた取組

主 要 事 業	① 体育遊びの開催	
具体的な取組 幼児教育事業と連携して、幼稚園、保育所で「体育遊び」を実施し、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎づくりをする。		4

## 社会教育 事務事業点検評価

### 成果と課題

総合評価

4

今年度は子育て支援センターの親子を対象に、からだを動かしながら親子でふれあえる内容の体育遊びを実施している。外部講師が子ども達の年齢に合わせたプログラムを作成し、丁寧な指導を受けることができるため好評である。現代の子ども達にとって体を動かすことは成長過程にとって重要であるため、来年度も実施に向けて担当者間で連携し計画していく。

### (4) スポーツ少年団活動の支援

主 要 事 業	① 町スポーツ少年団への支援体制	
	具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団事業(入団式・修了式, 研修会外)に対する支援を行う。</li> <li>・登録制度等の改正に対する体制構築の支援を行う。</li> <li>・体育施設、マイクロバスの貸出などを行う。</li> <li>・活動を適正化するための指導・助言を行う。</li> </ul>	3
主 要 事 業	② 町スポーツ少年団員の育成	
	具体的な取組 町体育協会と連携のもと、スポーツ教室を開催し、団員の技術力向上に努める。	3
主 要 事 業	③ 町スポーツ少年団の案内	
	具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・団員・指導者登録の窓口として、募集、登録、保険の諸手続を行う。</li> <li>・近年では、団員数減少に伴い単位団数も減少している。各単位団に体験会の実施を促し団員数の増加を図る。</li> </ul>	3

### 成果と課題

総合評価

3

・団員・指導者の登録・保険への加入など通常の業務は適切に実施された。  
 ・マイクロバスの貸出を行い、大会へ参加しやすい環境づくりに努めた。  
 ・入団式及び修了式を計画通り開催し、共催事業として「しかま・まなびのテラス講演会」を指導者研修会と位置づけ、単位団指導者の資質の向上に努めた。

# 色麻町教育委員会事務事業点検評価意見書

(令和6年度事業)

# 色麻町教育委員会事務事業評価（令和6年度事業）意見書

## 【はじめに】

令和6年度事業については、新型コロナウイルス感染症の5類に移行後とはいえ、常に安全・安心を考慮しながら色麻町の教育基本方針に基づく教育重点施策や具体的事業実践プランを継続されたこと、様々な教育課題に真摯に取り組まれている様子をおうかがうことができた。

令和6年度の事務管理及び執行状況の点検及び結果報告より、総合評価が「概ね満足」79.59%、「普通」20.41%という良好な達成状況が得られたことは、具体的な取組が実践されている成果であると感じた。

以下、教育基本方針に基づく教育重点施策や具体的事業実践プラン等の実施状況について所見を述べる。

## 【教育委員会】

### 1 教育委員会運営事業

#### (1) 教育委員会委員活動の事務執行

毎月の定例会や臨時会の開催と議案審議から、教育行政が円滑に運営されていることがうかがえる。また、1町1義務教育学校の強みを生かし、色麻学園との情報交換等による状況把握、各種の事務手続きが適正に処理されていると感じる。

### 2 事務局運営事業

#### (1) 教育全般にわたる事務の適正な処理

教職員の資質向上、指導力向上のための研修機会として県教育研修センター等の研修情報の提供や取りまとめの支援が行われている。このところ管内各校に新規採用教員が配置され、初任層が多くなっているため、初任層の負担を考慮しつつも研修充実のための支援をお願いしたい。今後も正確で漏れのない事務処理を期待する。

小学校入学祝金について、子育て支援を目的に「第3子」以降を対象に支給されているが、今後の展望として、少子化が進んでいる現状や、子育てしやすい色

麻町をPRする意味でも、支給対象の拡大や祝金の額の見直しなどを検討してもよいのではないかと考える。

外国青年英語指導助手招致事業については、令和5年度、外国語指導助手の途中退職により英語指導や外国語活動等に支障をきたす案件があったが、今年度、民間企業と外国語指導助手派遣委託業務の締結がなされ、ALTが配置されたことは、大変有意義なことである。言語・文化・習慣の多様性を学ぶ機会が失われないうように今後も経過を見守ってほしい。

国際交流推進に関することでは、国際交流推進審議会において中学生対象の国際交流海外派遣事業の見直しについて協議がなされ、語学力向上や異文化コミュニケーションの体験等、在籍生徒全員を対象とした事業の工夫を図るということで生徒にとって有意義な活動となるよう実施に向けて準備を進めてほしい。

### 3 奨学事業運営事業

#### (1) 奨学資金貸付金貸与者選考、貸付け、返還及び基金造成

奨学資金の貸付、返還に関して、過去には返還対象者の一部未納者が増加しているという記載もあったが、令和6年度分については計画的な返還を促し完納されたとのことで、定期的な確認と働きかけが実を結んでいると感じる。過年度分の未納についても計画的に返還がなされるよう、連絡等を継続していただきたい。

### 4 児童生徒の通学確保に関する事業

#### (1) 児童生徒送迎事業

スクールバスの利用料の軽減（第3子以降の利用料無料化）は、子育て世帯には大変有り難い。児童生徒の安全確保を第一とした運行を今後も継続してほしい。

### 5 学校給食に関する事業

#### (1) 学校給食費軽減事業

学校給食費の一食単価15%の軽減は、子育て支援事業として評価に値する。給食費無償の地域も増えている。色麻町の学校給食無償化に向けての検討を期待する。

## 6 不登校児童生徒への支援に関する事業

### (1) 子どもの心のケアハウス事業

様々な理由で学校への登校や集団への適応が難しい児童生徒に対し、子どもの心のケアハウスでの働きかけや、本人と保護者、担任、心の支援員等での情報交換が行われており、個の状況に応じた丁寧できめ細やかな取組が展開されている。今後も関係機関との連携を密にしながら、支援体制の充実を図るとともに個に応じた支援を願う。

## 【学校教育】

### 1 創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進

#### (1) 義務教育学校としての着実な学校経営

学校経営方針に定める「目指す学校像」「教師像」「児童生徒像」の具現化に向け、全教職員で共通理解を図り、共通行動のもと魅力ある小中一貫教育の創造に向けた教育活動の展開に努めている。

また、学年学級単位にまで具体化したグランドデザイン等の情報を保護者や地域に積極的に発信し、教育活動への理解を深めている。

さらに、学校評価や保護者アンケートの実施、学校運営審議会の開催を通して教育活動の改善につなげている。

#### (2) 創意と工夫に満ちた教育課程の実施と評価

義務教育学校として、9年間の系統性と連続性のある教育課程の編成に向け、実践を通して改善に努めている。教科指導において、後期課程教員による一部乗り入れや、前期課程高学年での一部教科担任制の導入による成果をもとに、若手教員の割合が増えている状況も踏まえ、今後さらに“チーム担任制”のような指導体制の弾力化についても検討を期待したい。今後も魅力ある義務教育学校の創造に向けた取組に期待する。

### 2 確かな学力を培う学校づくりの推進

#### (1) 教科等の指導力を高める教職員研修の充実

定期的な研修会や講師を招聘しての研修会を実施し、教職員の教科等の指導力の向上に努めている。

特にコロナ禍以降の教育現場での急速なデジタル化に対応した各種の研修（情報教育担当者による研修、デジタル教科書を使った授業実践の教員相互参観、外部講師による研修等）がなされており、研修体制が充実していると感じる。成果と課題のところに触れられているが、重要な“情報モラル教育”について、各学年の発達段階に応じた重点的な指導をお願いしたい。

## (2) 発達段階に応じた指導と評価の工夫

9年間の連続性を意識し、発達段階に応じた指導が行われている。一部教科担任制やALT・町教諭の授業、後期課程教員による前期課程での授業等（図工科や理科、体育科）が行われている。

前期課程、後期課程の教員の連携を大切にし、前期課程での到達点を明確にして共有したり、改善点を授業に反映したりすることなど、義務教育学校の特色、よさを生かした取組を今後も発展させていただきたい。

## (3) 一人一人の発達段階や特性を考慮した特別支援教育の推進

配慮が必要な児童生徒に対し、個別の支援計画や指導計画に基づき、信頼関係の構築や集中力を引き出すための教材の準備をするなど、きめ細やかな指導が行われている。

学習・生活面の指導には、教員の根気と包容力、労力が求められるが、該当児童生徒の「困り感」を軽減し、より多くの達成感と児童生徒や保護者の安心につながるよう、引き続き細やかな指導をお願いしたい。

## (4) 家庭における学習を支える指導の工夫

基本的な生活習慣の確立と家庭での学習習慣の定着に向け、教員が多忙な中で「生活のしおり」の作成・改善や「家庭学習の手引き」の提示、「家庭学習ノート」のチェックや教師のコメント、「ノートコンクール」の実施等様々な工夫がなされ、意欲の喚起に努めている。

また、家庭学習でのタブレット活用や、授業でのロイロノートの活用により、学習意欲が向上していることは喜ばしい。

S N S の利用時間の多さが課題として挙げられているので、健康面や学習面で

の家庭への啓発を継続するとともに、生徒会活動や児童会活動等も活用して、児童生徒の自発的な意識改善にも取り組ませてほしい。

#### (5) ICTを活用した教育環境の充実と活用

教材・備品等の点検や情報機器の整備や管理が適切に行われている上に、教材として使うアプリケーションソフトの見直しや、必要な ICT 教材の新規購入などにより、授業に活用されているのが良い。学習教材としての整備活用とともに、施設設備の安全点検についても、引き続き定期的に行い、ハード・ソフト両面での安全で質の高い学習環境を維持してほしい。

### 3 豊かな心を育む学校づくりの推進

#### (1) 各発達段階に応じた「志教育」の推進

児童生徒が、節目節目に自分の目標や夢について、しっかりと向き合って考えてみることは、志教育の視点としても大事なことであり、「十歳の誓い」や「立志式」で立てた夢や目標シートなどは、将来の色麻町成人式の記念誌「はたち」にも繋げていけるものと感じる。

また、小・中・高等学校や家庭・地域との連携（進路指導）が設定され、地域の公的機関の見学や職場体験活動等、保護者や地域、関係機関との連携を図りながら、地域のよさや将来の生き方について考えられる取組が充実している。

今後も学校・家庭・地域が同じ視点で児童生徒の将来像を支援できる体制づくりに努めてほしい。

#### (2) 心を育む道德教育の推進

「特別の教科 道德」の年間指導計画や別葉に基づき、道徳的实践力を育むために教育活動全体を通して豊かな体験活動と他者との関わりが大切にされている。

また、自他の命がかけがえのないものであるという「命の大切さ」についても計画的に指導されている。昨今の“闇バイト”や“特殊詐欺”に若者が簡単に関わり、人生を踏み外してしまうケースが多発していることから、自分を大切にし、他人を思いやる心の育成に重点を置いた教育の継続とさらなる充実に期待している。

#### (3) 望ましい人間関係づくりを目指す生徒指導の充実

いじめや不登校の未然防止と早期発見・対応に学校全体で組織的に取り組んでいること、関係機関との連携を図りながら課題を抱える児童生徒や保護者に丁寧な支援をされていることに敬意を表す。

いじめは、日常の中で、ほんの些細なことがきっかけで起こりうるものであり、兆候を素早くキャッチしようとする取組や情報共有が大切である。色麻学園の素晴らしい取組を継続しつつ、他県や他の自治体での調査方法や項目例なども参考にし、引き続き、いじめの未然防止や早期発見に努めていただきたい。

#### (4) 望ましい集団づくりを目指す特別活動の推進

9年間の義務教育学校の強みを生かした学校行事や縦割り活動、児童生徒の交流活動等の一層の充実を期待する。

また、望ましい集団づくりを目指し、「学級力アンケート」を毎月各学級で実施しており、レーダーチャートにして提示することで、児童生徒に学級の課題について意識づけていることが素晴らしいと感じた。

ただ、「学校生活アンケート」も毎月実施されており、担任をはじめ先生方の負担過多になっていないか心配である。いじめの兆候把握、早期発見は大切で、「学級力アンケート」にもその要素が含まれているかもしれないが、隔月調査にするなど過重負担にならないことを願う。

### 4 健康でたくましい児童生徒をはぐくむ教育環境づくり

#### (1) 進んで運動に親しみ、生涯スポーツの基礎を培う教育活動の推進

体力・運動能力調査結果から、改善に向けて「色麻サーキット」を考案し、実践に努めている。

また、後期生徒の外遊びの減少傾向を察知し昼休みに講堂を開放するなど、実態に応じて具体の対策が講じられている。

今後、その成果の検証が待たれるが、芝生化された校庭の活用やも含め、運動の楽しさを味わわせ、生涯スポーツの基礎を培ってほしい。

#### (2) 食生活に関する正しい知識と望ましい食習慣形成を図る食育指導の充実

食育指導の充実については、給食センターの栄養士による食育指導や給食指導、家庭科教諭による校内の掲示物による啓発、さらに給食だより等で家庭への啓発

を図る取組が推進されている。生徒からの質問や児童からの感想なども集めて発信するなど、より双方向的な「食育」の推進にも期待したい。

### (3) 健康で安全な生活を送るための保健・安全指導の充実

児童生徒の健康教育に関しては、デジタル社会の浸透によるゲーム依存・スマホ依存の問題や、ファーストフード化による加工食品の増加等の負の側面が課題となっている。これらは、家庭での生活に大きく関わる部分なので、よりよい生活習慣・食習慣形成のため、学校運営協議会や学年PTC行事などの地域の方や保護者が参集する場においても話題にするなど、積極的に啓発して行ってほしい。

また、地震や火災、不審者想定避難訓練が実践されているが、近年の風水害や熊出没等への対策や訓練については、迅速な情報共有や避難誘導など地域全体での検討が早急に必要であると感じる。

## 5 教職員と家庭・地域が誇れる学校づくりの推進

### (1) 家庭や地域と連携した教育活動・環境整備の推進・充実

登下校時の民生児童委員や地域の方の見守りボランティア、PTAの「色麻学園危険箇所マップ」作成の協力は、地域で子ども達の安全を守るという意識の高さを感じる。継続的な見守りと危険箇所の点検を願う。

### (2) 教職員の研修の充実と実践的研究の奨励

義務教育学校として9年間の系統性ある教育課程の実践において、教職員の教科指導力、生徒指導力、児童生徒理解等の向上のための研修は重要なものである。

色麻学園では、前期課程と後期課程の連携、三期（前期・中期・後期）部会ごとの研修を中心に授業改善やカリキュラムの検証・強化が図られており、教職経験年数の少ない教員の割合が増えてきている中で、校内の研修機会は大切である。

一方で、教師が児童生徒と向き合えるゆとりや、授業の準備をする時間の確保についても配慮をお願いしたい。

また、幼小連携において、幼稚園や子ども園の年長児と学園1年生との交流や、双方の教員による情報交換が行われている。円滑な接続と切れ目のない支援ができているので、連携協力を続けてほしい。

### (3) 教職員の服務規律遵守の徹底

教職員の服務規律の遵守や危機管理意識の高揚について、継続的に確認、啓発が行われている。風通しのよい職場づくりや報告・連絡・相談、そして確認の徹底を継続してほしい。

地域や保護者に対しては、学校便りの回覧や配布により、児童生徒の学校での様子の発信や、保護者向け学校改善アンケートを反映させた改善策の検討などを実施し、地域・家庭の理解と協力を得るための取組がなされている。

### (4) 教職員の健康管理と福利厚生の充実

毎週月曜日の定時退勤日が設定されたことで、勤務時間に対する意識が向上し、勤務時間が減少傾向につながったということである。近年、恒常的な時間外勤務の実態などが深刻な問題として挙げられ、学校における働き方改革についても課題となっている。各種事務、諸会議、報告文書作成等の軽減、効率化について、学校と教育行政が一体となって進めていくことで、教職員の方々が安心して職務に専念できる環境を整えられることをより一層願う。

## 【社会教育】

### 1 生涯学習社会の推進

#### (1) ライフスタイルに応じた学習機会の提供

出前講座について、定期的にメニューの見直しを行い、学習機会を提供していることが、色麻学園の利用や、各地区などからの依頼による体験講座等での利用増につながっていると感じた。町の中核施設（農村環境改善センター等）に出向くのは難しくても、地区の集会施設等では活動したいと思う世代の方も増えてきているので、着座でもできるニュースポーツやフレイル予防の軽運動や脳トレに役立つような出前講座メニューなど、今後も魅力的な社会教育事業の発信を期待したい。内容にやや偏りが見られるため、子育て世代向けや仕事帰りに参加できる短時間講座・夜間講座など、新規層の開拓が図られるよう期待する。

「しかま学びテラス」では、色麻学園生徒や一般町民を対象に、元オリンピック選手や優れた指導者の方を講師に招き、講演会が開催されており、志教育や人材育成などの多くの視点で参考になる研修の場が提供されている。今後も、貴重な学びの機会として継続してほしい。

広報活動は、情報を受け取らない層へのアプローチを工夫して、多くの町民が参加できるよう努めてほしい。

## (2) 組織化支援とつながりづくり

学校支援ボランティアをはじめ、各種事業へのボランティア活動を促し、町全体で連携協力をし合う雰囲気が醸成されている。6年度に読書ボランティアが組織されたことも成果である。色麻町の特色でもある“サマーキャンプ”や“こどものまち”にジュニア・リーダーや地域の方々が参画しているのも素晴らしい。部活動やスクールバスでの通学等で、ジュニア・リーダー活動が停滞している市町もあるが、町運動会やコミセン祭り、図書まつりなどのイベント毎のボランティア生徒をその都度募集するなど、準会員の活動も評価して若い世代の地域所属意識や地域貢献力を高めてほしい。

## (3) 生涯学習施設の効果的活用の促進

公民館やスポーツ施設等の生涯学習施設利用については、手続きの簡素化が図られ、調整会議により多くの団体が利用できていると感じる。施設が利用しやすく、町民の文化活動やスポーツ活動が推進されることは、生きがいづくり・健康づくりの面で重要なことなので、今後とも施設の維持管理、備品の充実を図り、健康長寿の町づくりが推進されることを期待したい。

## (4) 面白そう・楽しそうな青少年の体験活動

令和3年度からスタートした郷土学習「色麻学」は、園児から小・中・高校・成人までのそれぞれの年代を対象に学習プログラムを設定し、“知る”“学ぶ”“創る”を学びのステップとして計画・実践されている。6年度に関しては、流行病の影響で参加者が少なかった天文教室などもあったか、評価が他の項目と比べ「普通」と厳しかったが、地元について知り、学ぶことで、次への学習意欲に繋がる「色麻学」の魅力をさらに浸透できるよう、今後の実践、評価、改善に期待したい。

## (5) 地域福祉・地域医療を支える学習活動

保健福祉課と連携して行う「生き生き長生き講座」は、健康講話など日常生活に生かしたい内容が組み込まれ、参加者の多さからも関心の高さが感じられる。健康長寿には、日常生活での“軽運動”や“笑うこと”“脳活”なども大切なので、豊齡

者学級の事業とも照らし合わせながら、例えば落語や手品などの演芸や、貼り絵や川柳、ボードゲームなどの脳を心地よく刺激する内容もバランスよく組み込まれるとよいと思う。

また、中学生の合唱部が、地域の集会所で高齢者に合唱を披露し交流した事例など、若い世代と高齢者の交流機会を創出することも生きがいづくりにつながる。

#### (6) 学校を核とした地域づくり

「色麻学」での講師をはじめ、色麻学園の総合的な学習の時間への支援ボランティアの派遣など、生涯学習課による各事業実施までのコーディネートは、大変であると察する。実施委員会での協議や色麻学園、地域学校協働活動推進本部等の関係諸機関との検証を踏まえながら、互いに支え合いながら、今後もよりよい事業が実施されることを期待したい。

## 2 ライフステージに応じた社会教育「学び」の充実

ライフステージに応じた社会教育については、「幼児」「家庭」「青少年」「成人」「女性」「高齢者」のステージで、魅力的な事業となるように内容の検討を重ね、情報発信もしながら、事業の充実や組織の強化に努めている。

### (1) 幼児の「学び」の充実

幼児教育で、令和6年度は実施できなかった演劇鑑賞が、7年度はこども園で予定されている。幼児期の豊かな感性を育てる機会として実施されることを願っている。

### (2) 家庭の「学び」の充実

家庭教育講演会は、色麻学園の保護者からの希望がなく行われていないが、学校が実施する保護者アンケートの中に、例えば自由記述で“今、気になっている社会問題”とか、選択肢で（スマホ依存・闇バイト・食料自給率…）のように例示して、保護者の関心事を把握しておくこと、講演会の実施検討に役立つのではないかと感じた。

家庭教育支援活動では、情報紙「ほっとたいむ」の発行など町の支援チーム員による活動が行われ、公民館の掲示も装飾が施され、心が和むものになっている。

県が行う「親のみちしるべ」も、乳幼児のいる保護者の子育てが“孤育て”にならないようにする内容から、自分の誕生を振り返り“命”について考える高校生対象のものまであるので、町支援チーム員の協力を得て適宜活用してほしい。

### (3) 青少年の「学び」の充実

青少年の「学び」の充実において、ジュニアリーダーの新規メンバーの加入、自主企画事業「おばけやしき」では349名の参加者を集めるなど、子どもの主体的な取組の様子が素晴らしい。

「サマーキャンプ」は、参加者募集では色麻学園の協力、キャンプの活動メニューでは松島自然の家職員の支援を得て実施しており、形態としてとても良いと感じる。各地で会員数や活動の活性化が課題となっているジュニア・リーダー活動が、色麻町では活発に行われている事も誇らしい。

今後も小規模イベントの企画から当日運営までを体験させたり、イベント報告や写真をSNSで発信したりすることで、参加意欲を高め、リーダーの育成を図ってほしい。

### (4) 成人の「学び」の充実

成人式では、対象者の8割が参加して人生の節目を関係者で祝福できたことが何よりである。式の招待者やアトラクションの実施の有無、記念誌製作の原稿依頼の方法など、成果や課題をもとに式実行委員会とも協議しながら、門出にふさわしい式が継続できるよう準備を進めてほしい。

### (5) 女性の「学び」の充実／(6) 高齢者の「学び」の充実

女性や高齢者の学びの場や活躍の機会が提供されているが、会員数の減少や参加者が少ないケース等の課題がうかがえる。「生き生き長生き講座」のように他の課と連携して周知方法を広げたり、内容の関心度を高めたりするのも有効である。また、文化協会の展示発表会と婦人会のイベントを同日同会場で開催するような諸団体の合同事業なども活性化策の一つと考える。

## 3 図書事業の推進

### (1) 図書への興味関心を引く環境づくり

利用者のニーズに合わせた図書購入や図書館の環境整備、おはなし会の開催など、町民の図書館の利用促進に努めている。読書離れが進む昨今、幼少期の子どもや保護者が多くの本に触れる機会が推進されていることは喜ばしい。

今後は、読書ボランティア養成を図り、おはなし会をアウトリーチ事業として充実できないものか検討を願う。

## (2) 読書習慣の定着が図られるような図書環境づくり

移動図書館「なかよし号」の老朽化が進み、一部の施設のみの巡回であったため、車両更新に向けた予算の計画やクラウドファンディングの活用等を工夫し、多くの子どもたちが利用できるようお願いしたい。

ブックスタート事業と連携しての検診時における図書館のPRやリサイクルブックマルシェと図書祭りの同日開催等、本に親しむきっかけづくりやイベントの持ち方の工夫等、熱意が伝わってくる。今後も多くの町民に親しまれる活動を続けてほしい。

## 4 情報技術・視聴覚教育の充実と振興

### (1) 大崎生涯学習センター（パレットおおさき）の活用促進と基本的知識や能力を習得する機会の提供

大崎生涯学習センターの活用が主な取組となっている。プラネタリウム利用以外の具体的な取組について検討を願う。

## 5 芸術文化活動の振興

### (1) 芸術鑑賞の機会の提供と拡充

色麻学園の児童生徒に、毎年、優れた芸術鑑賞の機会を設けている。

このことにより、9年間の課程修了までに、児童生徒は少なくとも2回以上は、優れた演奏や演劇を鑑賞する機会に恵まれており、貴重である。

今後は老若男女幅広い世代に鑑賞や参加の機会を広げられるよう、イベントが拡充されることを期待する。

これからも、県の事業や広域施設であるパレットおおさきの事業や機能を有効に活用して行ってほしい。

## (2) 芸術文化活動の担い手の育成

文化協会と協力・連携して実施された「町民文化祭」や「さなぶり芸能大会」に、色麻学園生徒の出演・発表の協力を働きかけ実現したことは、とても良かった。参加生徒や指導教員、引率者の負担が最小限になるよう配慮しながら、探究活動の概要紹介とか、吹奏楽部員のミニセッション、美術部の作品展示や文芸部の朗読など、無理のない可能な範囲での参加が継続されることを願いたい。

作品展示等であれば、認定こども園や加美農高との協力連携も視野に入れることも検討してほしい。

また、伝統・伝承芸能活動の積極的な支援では学校や郷土芸能活動団体との連携を深め、色麻に古くから伝わる踊りや神楽が将来に永く伝承されるよう、努力してほしい。

## 6 文化財保護体制の整備充実と活用の推進

### (1) 文化財保護体制の整備／(2) 史跡の整備

文化財保護については、「文化財パトロール」や「文化財防火デー」による調査や記録、訓練を実施するとともに史跡の整備に努めている。また、「古墳の品々」として企画展を開催しており、今後もその充実が望まれる。

### (3) 伝統・伝承芸能活動の積極的な支援

文化財の保存や継承の中で、無形（民俗）文化財の伝承が課題の一つと感じている。田植え踊りや神楽を町民文化祭や芸能大会で披露していることは、文化財への理解や支援を得る意味でも大切と考える。また、色麻学園後期課程の学習にも神楽等の伝統芸能が取り入れられていることも望ましいと思うので、引き続き学校の協力と、生涯学習課や文化協会、保存会等による支援をお願いしたい。

### (4) 町内の文化財や資料展示室等を活用した学習機会の提供

愛宕山公園のシャクヤクの開花時期に合わせて、考古史料「古墳の品々」を企画展として実施するなど、町内外の大勢の方が来訪する時期に、事業をリンクさせて行うことは、町の魅力を多角的に発信できる好機であり、このような効果的な企画運営を、今後も続けてほしい。

## 7 生涯スポーツの推進

### (1) 生涯スポーツの普及振興

安全かつ快適に利用できるよう施設の維持管理、環境整備にも努めている。

### (2) 各種スポーツ大会の実施

内容を検討し、半日での開催とした町民運動会は、台風の影響で6年度は中止となったが、町民が楽しく心地よい汗を流し、地区民相互の親睦交流が図れる場としての今後の開催に期待したい。

熱中症対策を十分に検討しながら種目内容を見直したスポーツ大会やスポーツ教室を実施し、生涯スポーツの推進に努めている。今後も様々なジャンルのスポーツやダンスを取り入れ、年代を問わず楽しめ継続的な運動習慣の定着を目指した各種教室の開催を今後も期待したい。

### (3) 子どもの体力・運動能力の向上に向けた取組

幼児教育事業とも連携し、親子で楽しめる体育遊びを実施している。

### (4) スポーツ少年団活動の支援

少子化の影響が大きく、スポーツ少年団の団員数が減少する中、現在活動している団員の活動を保障する登録手続きや保険加入、マイクロバスの貸出などの環境が整備されており、維持していただきたい。

一方で、特に団体スポーツにおいて、子どもが取り組みたくても地元で活動できる場が無いというケースが多くなっているため、体育協会各部会等の協力も得ながら、幼少期から多種目のスポーツに触れ、本人の興味や適性を考えるきっかけになるようなキッズ向けスポーツ体験会などの企画も検討して見てほしい。

## 【むすびに】

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により休止、中止を余儀なくされた事業が本格再開された年である。しかし、一度止まった事業には、元に戻ったものもあれば、再開が困難となっているものもある。コロナ禍において加速したデジタル化等、新たな要素も考慮し、事業を展開して欲しい。

色麻町教育委員会事務事業点検評価委員

佐々木 加代子

佐々木 正 弘

千 葉 剛

令和8年4月

評 価 者

色麻町教育委員会

学識経験者

教育長 千葉 律 之

佐々木 加代子

委 員 半 田 宏 史

佐々木 正 弘

委 員 岩 城 幸 喜

千 葉 剛

委 員 浅 野 奈 美

委 員 尾 形 由 加